

POETRY AND LYRICS

MY SHISHU

マイ詩集

季刊
POETRY & LYRICS

MY詩集

テーマ特集
好きな色 / 孤独

2020
2月号
(VOL. 428)

テーマ作品特集

Any colour you like / Solitude
好きな色 / 孤独

2月号



薔薇色メモリー

坂井まゆ子

ワインなら ロゼが好き
きれいでしょ

グラスに注いで 透かしてみるの

世の中が 薔薇色に
見えるでしょ

窓辺の椅子に 座って見てるの

薔薇色の 雲の向こうで
あのひとが 笑顔みせてる

いつだって 思い出のなか
あのひとは 微笑んでるの

西の空 三日月が
きれいでしょ

いちばん星が 寄り添ってるわ

世の中の いやなこと
忘れましょ

ガラスの窓に 私が映るわ

薔薇色の 雲が消えても
明日は来る 夜を越えれば

一人でも 孤独じゃないわ
あのひとの 思い出がある



マ イ 詩 集
POETRY and LYRICS

2020 2月号 VOL.428
CONTENTS

テーマ作品特集 孤独 ……………29

小林智恵 清水将一 神崎 進 坂井まゆ子

Sho-T 小田ともひさ 滝田一三六

四谷 文 聖川 泉 中田のぞ美・t・

Poetris 2019.12.1→2020.1.5 ……………自由詩…54

エッセイ たった二人のお客様 ……中田のぞ美・t・…66

MY詩集11月号(427号)掲載作品 感想録

ファンレター BOX ……………69

RE: FAVORITE WORKS ……返歌・返詩…76

エッセイ フォア・レディース・シリーズ ……冬木りた…85

MEMBERS INDEX ……マイ詩集・作者別索引…94

テーマ作品特集 好きな色 ……………2

坂井まゆ子 佐藤弘基 涼木由真 吉沢弘子

片野ちえみ おおら和男 小田ともひさ

雪した桜 いかり あさこ 絵美里☆鳥星

現世乱歩 川島理生子 ちくちうしめ

詩作談話室 あとりえぼえむ ……………熊谷ゆき…20

Thirty-one syllables ……………短歌／俳句…22

Lyrics 2019.12.1→2020.1.5 ……………作 詞…34

作詞ワークショップ ……………有海治雄…40

SONGWRITING BASIC ……作詞の基本…51

次のMY詩集 5月号
(429号)

原稿メ切……………4月5日

バックナンバー・リスト……………P.90 - 93

原稿募集一覧……………P.96

MY詩集同人・入会のご案内……………P.96

表紙…………… 蛭田賢一 Kenichi Hiruta

〒332-0015 埼玉県川口市川口4-3-18 MY詩集 編集部

Phone 048-252-8821

編集発行人・熊谷ゆき Yuki Kumagai

editorsroom2@my-shishu.com

http://my-shishu.com



ふたりの季節

—ふたりの結婚式でうたう歌—

涼木由真

春 さくら色 花びら舞っている
夏 青い海 潮風ふきぬける
秋 もみじ色 野山を染めあげる
冬 白い雪 しんしん降りつもる

どんなに時が 流れても
わたしの心の キャンパスを
やさしい色で ぬりかえる
それは あなたの 微笑み

いつでもあなたの 笑顔みせて
昨日も今日も 明日も

春 花吹雪 お花見続いている
夏 青い空 飛行機雲走る
秋 ^{こがね} 黄金色 イチョウの雨が降る
冬 銀世界 朝陽を待っている

ときどき遠くに 離れても
わたしの心の キャンパスを
やさしい色で ぬりかえる
それは あなたの まなざし

いつでもあなたと 見つめあって
昨日も今日も 明日も



思い出の色

吉沢弘子

グリーンの サンドル
小学生の 私に
おばさまが 買って くださいました

グリーンの サンドル
「春らしくって すてきね」
母さまも やさしく 微笑みました

足取りも 軽やかに
庭先で スキップ
そのまま 野原に 出かけてました

まっしろな ワンピース
12才の 私は
文化祭の 舞台上で 歌ってました

まっしろな ワンピース
「妖精みたいで かわいい」
友だちの 言葉が 聞こえてました

ソプラノが むずかしく
二週間 レッスン
努力が ようやく むくわれました

こどもの頃の 思い出の色
瞳を閉じれば よみがえる

やさしい香り アロマテラピー
思い出抱いて 眠りましょうね……

グリーン・バンダナ

佐藤弘基

森に林に 山に丘
緑の大地に ホットする
ノスタルジックな 光景が
僕にやすらぎを 与えてくれる

いつもあなたを 見ていると
心がとても 豊かになる
緑の果実が 成熟する
僕の心も 成長する

大自然の 恵みを受けて
木々や草花 成長する
あなたに向かって 伸びていく
ロマンス色の グリーン・バンダナ

極彩色のエメラルド
色鮮やかで ハットする
ロマンとやすらぎ ちりばめて
緑色に shining

ロマンティックな 世界を求め
緑のバンダナ しめる僕
あなたの愛を つかみたい
やすらぎ感じて 眠りたい

あなたがくれる やすらぎが
ノスタルジアへと 僕をいざなう
優しく包容力のある
やすらぎ色の グリーン・バンダナ

私が好きな茜色

小田ともひさ

私が好きな茜色
朝日にそまる雲の色
希望がふつつ湧いてくる
今日も一日頑張ろう
生きる力を満してくれる
生きる勇気をあたえてくれる

私が好きな茜色
夕日にそまる雲の色
生きる喜び満してくれる
楽しく生きた一日も
失敗に悩んだ一日も
それでいいよとなぐさめてくれる

私の好きな茜色
朝日にそまる雲の色
夕日にそまる雲の色
生きる喜び満してくれる
悲しみをわすれさせてくれる
生きる希望を満たしてくれる

私の好きな茜色
朝日にそまる雲の色
夕日にそまる雲の色

白と黒

片野ちえみ

白い服 身にまとう
純粋に 見えるよね
友だちが ふえていく
だから白 白がいい

幸福の きっかけは
半分が 作り笑い
少しずつ わかってきた
真実の 裏の姿

すべての色 はねかえす
それが白
夢だけ見せ 疲れさせる
それが白

黒い服 身にまとう
なんとなく ホットする
友だちは 距離をおく
それでいい 黒がいい

いままでの 人生は
半分が 黒歴史
だからこそ わかってきた
本物の 愛の姿

すべての色 受けいれる
それが黒
あらゆる罪 ゆるしている
それが黒



一番星の空

絵美里 ☆ 烏星

冬の初めの
一番星が輝く頃の
空の深い青が好きだと言った人
家に私を呼んでくれて
お菓子を作ったり
生まれたばかりの妹を見せてくれたり
楽しかった子供時代
中学校では陸上部員で
長距離が得意だった人
でも体操部の練習も気がかりだったのかな
高校に入ってから体操を始めたのね
元気が取柄の大好きな女の子
今日も晴れた夕空に
一番星が見えるでしょう
あの日の空の色にもう一度逢えるでしょうか
あの頃の友達にもう一度逢えるでしょうか
あの人が住んでいた家の前を通る時
時折お母さんを見かけて
あいさつをします



白

真白な雪

ゆっくりゆっくり舞い降りる

大地をモノクロの木々を塗り替える

湯気立ち上る

艶やかに光る白米

動くエネルギーの源

青い空を真っ直ぐ

一直線に走る飛行機雲

狙い定め潔く進み行く

愛育む大切な時間

心踊らせ夢踊らす娘姉妹に

純白のドレス贈ろう

うかりあせい

好きな色

好きな色といえば 青だった

空の 青く澄んだ ブルー

海の 青い 深いブルー

何となく 好きだった

次に 好きだったのは 緑

生き生きとした 植物の緑

確かに 若い頃は そうだった

年を重ねるにしたがって

時間と共に 変わってゆくのか

ほんの少し かすんでゆく

淡い ブルー

淡い グリーンが 好きになってくる

そして うすい灰色

なぜか 心が落ち着いてくる

うすい グレーの色

ほんの少し あたかさを感ずる

おおう和男



ぼかし

ちくちくしめ

I 三角点は瑠璃色

三角点に立ち北を向く
遙か彼方の空の下……あの辺だ
眠ってた脳に風が吹き込み
ズキンと世界が一度傾いた
君の口癖や仕草が
頭の深い所いっぱい広がった

三角点に立ち向きを変える
北から東へ南から西へ
溶けるように消える夕焼け
墨絵のような世界に街の灯
何かが違っていた
怖くは無かった

三角点に立ち風に叫ぶ
何もかも飛んで行くと

II 筋肉痛は紫苑色

ふとした事に笑い
いい話に涙し
国会答弁に怒り
趣味に暮れる
駄目な人間でもあり
良い人間でもある

筋肉痛が治ったら
今度は晴れの日に登ってみよう
平日ののんびりと
まだ普通の人でいられる
何となく一日が始まり
何も無く一日が終わる

煩惱のままにいて
まだありのままですられる

III 靴墨は琥珀色

汚れた靴をピカピカにする
こびりついた泥は水に流す
ぬかるみもあつた
岩を踏みしめた
小さな花が咲いていた
石ころがじゃまだつた

靴墨を付けてブラシを掛ける
ピカピカにしてまた一歩から
見ようによってはくたびれている
遣りようによっては見違える
新しいものより美しく
ちよつと古くてもかかっこいい

靴を磨く
無心に磨く

テーマ作品（作詞・自由詩・短歌・俳句・物語・エッセイ他）募集

マイ詩集同人の皆さまへ——次号のテーマ特集のページに発表します
P96で募集している自由テーマの作品とは別に発表できます

Message to twenty-year-old me

二十歳の私へ

Rainy day

雨の日

作品形式の募集内容に合わせて書いて下さい

作品タイトルにはなるべくテーマ名をそのまま使わないで、オリジナリティを出しましょう（部分的な使用はOK）

作詞・自由詩・短歌・俳句・物語

- ・自由詩……20字×25行以内（題名作者名含む）
- ・作詞……20字×30行以内（題名作者名含む）
- ・短歌・俳句……2首以上の連作
- ・連作自由詩（三部作／四部作）1編20字×25行以内
1編ごとに完結したもので、全編を通してもひとつの作品として味わえるものとします。
- ・詩物語（長編自由詩）……20字×50行以内
ストーリーとして完結しているものに限りです。

作詞・自由詩・短歌・俳句・物語

- ・自由詩……20字×25行以内（題名作者名含む）
- ・作詞……20字×30行以内（題名作者名含む）
- ・短歌・俳句……2首以上の連作
- ・連作自由詩（三部作／四部作）1編20字×25行以内
1編ごとに完結したもので、全編を通してもひとつの作品として味わえるものとします。
- ・詩物語（長編自由詩）……20字×50行以内
ストーリーとして完結しているものに限りです。

原稿用紙1枚目の右上に、4つの必要事項を明記して下さい。

【1】○月号発表用 【2】同人番号 【3】本名

【4】テーマ名と作品形式（テーマ○○作詞／テーマ○○短歌／テーマ○○連作自由詩等）

受付期間 3月1日 - 4月5日（掲載：5月発行の5月号）

送り先 〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集5月号 [テーマ名] [作品形式] 発表係
[作品形式]には「作詞」「短歌」「俳句」「連作自由詩」等を入れて下さい。

小説・エッセイ等

次号発表用の詩・作詞・短歌（自由テーマまたは募集テーマ）のいずれかを送稿済みの方を対象とします。小説・エッセイ等の長文テーマ作品は、選考による掲載となります。

- 内 容 ・ 募集中のテーマ【二十歳の私へ】または【雨の日】に該当するもの
- 作品形式 ・ 随筆・エッセイ……400字詰原稿用紙2枚～10枚
・ 感想文・評論文……400字詰原稿用紙2枚～10枚
文学、美術、音楽、映画、演劇等を対象にしたもの
別紙で対象作品のあらすじや説明等を400字以内で添付
- ・ 小説・童話等の創作…400字詰原稿用紙5枚～50枚前後
詩歌（詩・作詞・短歌）と散文の組み合わせも可
別紙で主な登場人物紹介とあらすじ400字以内を添付
- 用 紙 ・ A4判400字詰原稿用紙 または A4判ワープロ印字用紙（1枚に20字×20字）
・ すべての用紙の右上に、通し番号を明記。
・ メール送稿では別途にワープロ印字用紙の郵送をお願いする場合があります。
・ 原稿返却希望者は、返信切手貼付宛名記入済みの封筒を同封して下さい。

同人番号・本名・テーマ名・作品形式を、1枚目欄外に明記。

受付期間 3月1日 - 4月5日（掲載：5月発行の5月号）

送り先 〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集5月号 [テーマ名] [作品形式] 発表係
[作品形式]には「エッセイ」「感想文」「小説」等を入れて下さい。

長文（詩物語・三部作・四部作・エッセイ等）作品募集



詩物語、エッセイ、小説等の長文作品は、選考による掲載となります。

- 詩物語（長編自由詩）** ストーリー性のあるセミロングの自由詩とします。
長さ：20字×40行～50行 または 20字×80行～100行
（タイトル、作者名を含みます）
- 三部作／四部作** 1編ごとに完結し、全体を通して1つの作品としてまとまった詩。
総題のほかに各パートの題名もつけて下さい。
1編の長さ：20字×25行以内（タイトル、作者名を含みます）
- エッセイ
短篇小説** 長さ：400字詰原稿用紙2枚～30枚前後
長さ：400字詰原稿用紙5枚～50枚前後（あらすじ400字程度を添付）

- 用 紙 A4判400字詰原稿用紙
またはワープロ印字用紙（文字サイズ18ポイント以上）
用紙右上の余白にマイ詩集の同人番号を明記
- 受付期間 3月1日 - 4月5日（掲載：5月発行の5月号）
- 送り先 〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集
5月号 詩物語係／連作自由詩係／エッセイ係／小説係
- メー ル 登録アカウント@my-shishu.com
題名：5月号 詩物語係／連作自由詩係／エッセイ係／小説係

もうすぐ春。昭和の頃には、ごく無沙汰している知り合いに手紙を書くときに「梅の蕾もかくらんできたこの頃、いかがおすごしでしょうか……」みたいな、季節感のある挨拶文で書き始めたものでした。いまでは手紙自体が、もう、ごく一部の人々の楽しみという感じになってから、だいぶ年月が経っているような気がします。

それでも、昨年の秋にお茶の水や新宿に出かける用事があったとき、画材屋さんを兼ねている老舗の大きな文房具屋さんに立ち寄ったら、便せんの種類がものすごく豊富で、気に入ったデザインのものを何種類も、大人買いしてしまいました。

何十年も先のことは分かりませんが、わたしが生きているあいだくらいは、手紙を読んだり書いたりする楽しみというの、ひっそりと続いてゆけるのではないかしら……などと思っています。

毎号の送稿のときにお手紙を添えてくださる方々に感謝……どうもありがとうございます。いまの時期には、同人継続申込書のメッセージスペースで、MY詩集へのご意見などをいただいたりもしていますので、そこに書いて下さったみなさまにも感謝、ありがとうございます。いつもは、お手紙やメッセージのお返事を、本誌の発送のときに別便または同封でお届けしているのですが、きょうは、わたしの気持ちとして、毎号MY詩集を手にとって下さるみなさまにも解っていただきたくて、があるので、個別の返信とは別に、ここでも書かせていただきます。(スペースの都合で一部の方のみです)。

まずは、ある方にいただいたお手紙からの抜粋。「詩を書くことは子どもの頃からの夢だったので、MY詩集に出会えてよかったです。とはいうものの、読んで

いて、自分と同世代の人たちの作品には心が震えますが、若い世代の人の作品は、……?と、考えてしまいます。単に自分が年取っただけ……?」

わたし的には、どんな年代の方にも加齢にともなう感受性の変化というのが多かれ少なかれ生じてくることを理解しているつもりですが、それでも、みなさまには、できる範囲でよいので、お願いしたいことがあります。人生経験が豊富な方も、まだ折り返しまでいっていない方も、ご自身の年代に自ら足かせを作るようなことはないで下さい。体はともかくとしても、心だけは自由な翼を持つ鳥のようであってほしいのです。

長年の発行を重ねてきたことで、現在のMY詩集は参加者の最高年齢と最少年齢で四十年ぐらいの差ができていますが、作者の方々は、どんな年代でも、発表の場所として自らMY詩集を選び続けてきた、ということに変わりはないのです。

本誌へのご意見として寄せられたメッセージの中には、こういってお言葉もありました。「同じ空の下で生活している人が書いた作品だと思つと、親しみを感じます」「人生経験が感じられる作品が増えましたね」「自分の詩の創作意欲に繋がっています」「……いずれも比較的若い年代の方々から、です。そしてまた、人生経験が豊富な方々からも、似たようなお言葉をいただいています。

さて、次号の課題テーマのひとつ(二十歳の私へ)は、現在の自分から二十歳の頃の自分に伝えたいことを書くというものです。作品全体を手紙形式にしてもいいし、その頃の自分へのメッセージを含めた現在の近況報告でもかまいません。

次号のみなさまの作品も、楽しみにお待ちしております。

すみれ色

雪じた桜

色とは人の感覚を引き起す脳内現象
世界には人が識別できる色が
約100万色存在すると学びました
色には固有のメッセージがあり
プラスとマイナスのエネルギーを秘め
人の心に影響を与えるそうです
色で人間の心理分析もできると知り
色のもつ不思議な力に深い興味をもつ私

人生の節目節目につながってきた色は
心の写し鏡でもあり
健康にも影響してきた気もします
いろいろな色との出会いがあった中で
一貫して好きな色があります
幼い頃に庭で見つけたすみれの花の色
こころに深く残る紫色
想い出と共にいまも私の中で生きる色
今日も夜空を眺めながら
さまざまなかごころの中を巡り
人生を彩っていく

スパイスおばさんのお菓子をどうぞ

現世乱歩

春はピンク 桜のケーキ
卒業式の涙で 甘さ引き立つ
夏はブルー 青空ゼリー
朝顔のカップ しぼまないうちに早く
秋は金色 チーズスフレ
チーズは銀杏印 夕陽の金粉
冬はまっ白 プラマンジエ
こぼれた言葉 吸い取ってゆく雪の色
空 草 雨 風 みんな胸にせまる色
でも あなたがあなたになる瞬間
立ち上がる時の色が一番好きよ
見て見ぬ振りしていた涙
牙の心 踏んだ棘 つぶさに見つめ
あなたはあなたの色になる
パレットいっぱい広がり 飛び立つ色よ
少し分けてね そのひと色
空 草 雨 風と交せ呪文をひとつ
虹のケーキが生まれてくる
今度は どの町へ届けよう 空を飛び
ひととき 香ばしい紅茶に身をまかせ
また あなたは手探りで歩き出す
素っぴんのほほ笑み その色が好きよ
空 草 雨 風 みんな胸にせまる色
でも あなたがあなたになる瞬間
立ち上がる時の色が一番好きよ

Thirty-one syllables



糸付きのアメのとなりに変わり玉

子どもの頃に通った駄菓子屋

吉沢弘子

東シナ海オホーツク海

地図帳で名前おぼえた小学時代

想い出は遠くなってもなつかしい

ミカンの香りとセピアの写真

短歌・俳句 作品募集

- 短歌の改行の有無や位置は自由です。
- 連作は、短歌 2-10首前後、俳句は 3-20句前後まで。
- 用紙 A4判400字詰原稿用紙使用。ワープロ印字用紙も可。
用紙右上の余白にマイ詩集の同人番号を明記して下さい。
- 受付期間 3月1日 - 4月5日（掲載：5月発行の5月号）
- 送り先 〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集5月号 短歌／俳句係
メール 登録アカウント@my-shishu.com
メールの題名：5月号短歌／俳句係
- 課題テーマ作品についてはP19を参照して下さい。
- 自由律の俳句や短歌は対象外です。P96募集の一般自由詩として送稿して下さい。

免許書書き換えの講習日

小田ともひさ

千両に夢の膨む宙の果て

千両や東の空に茜さす

千両やまづ喜寿までの夢開く

山茶花や若き夫婦に道を問ふ

ノート買ふ時計確かめ年の暮

年の瀬や階段急ぎ南北線

混み合ひしセンター駅の師走かな

寒天や坂道降りて古き町

枯葉道右に下り行き教習所

枯葉舞ふ教習受けしは遙かかな

見えぬ餌を啄ばみ歩く冬の鳩

葉を落し枝ぶり競ふ枯れ木かな

冬日落ち他国の空に昇りけり

我が見ても駄作もあるさ数あればそれでも出そう第一歌集

読み始め何年経つやこの春に念願かない第一歌集

日記なら続けてこれぬ短歌なら日記代わりの第一歌集

父の歌母に比べて少なさに詫びる気持ちの第一歌集

本当は妻に献本したけれど言葉が怖い第一歌集

それぞれに作り話の歌もあり創作集なり第一歌集

詠まれたく批判が怖い胸の内そつと差し出す第一歌集

生前の母を殺した歌もありフィクションなりし第一歌集

ひっそりとひとりになりたい時もある瞳を閉じて心を閉じて
本当にひとりほっちが好きなならば求めはしない人のぬくもり
群れの中話す言葉も友も無くポツンとひとり佇む孤独
本当の自分を理解してほしい作り笑いで過ごした日々よ
いつだって淋しがり屋がここにいる慣れてはきたがやっぱり孤独
人は皆淋しさゆえに寄り添って孤独を恐れ明日へと向かう
愛を知り愛し合えれば暖かく孤独の氷河溶け始めてる

心の絆

神崎 進

夕暮れの秋の森
落ち葉を踏みしめ歩いてみると
カサコソという乾いた音が
二歳でこの世を去った娘の声に聞こえ
人なつっこい子が木の陰から現れて
笑顔で駆け寄って来そうだ

今は空き家になってしまった実家を訪れ
暗い居間のカーテンを開け放つと
差し込んだ光に照らされて
去年亡くなった母が
写真の中で嬉しそうに微笑みかけてくる

最近一人でおいしいものを食べるとき
次女と母に語りかけるのが習慣になった
「おいしいね。一緒に食べようね。」

毎日顔を合わせている人々よりも
この世にいない娘や母と心が通じている
この心のありようは
孤独というべきなのだろうか
それとも

孤独

清水将一

一人とこのことは

独りである

独りとこのことは

誰もいないとこのことである

誰もいないとこのことは

誰も話さないとこのことである

誰も話さないとこのことは

思考が停止するこのことである

思考が停止するこのことは

動物と同じである

動物と同じだとこのことは

本能だけで生きることである

本能だけで生きるとこのことは

もはや人間ではないとこのことである

孤独が怖いのは

人間を非人間にするからだ

我々は人間なのだ

神様の生活

滝田一三六

I 一年の計は

はてさて今年の計画は
何をどうするこうすると
思いめぐらすばかりでは
何も成らぬと知りつつも
朝から炬燵で丸くなる

オーイと呼んでみたけれど
ハイイと答える神も無く
萎れた体を起こしてみても
閉じたままの瞼の裏が
やけに赤くて涙も出ない

これじゃ駄目じゃと騒ぐ胸
一年の計は元旦に有り
神に誓いを立てもせず
思いつきと勢いで
一日一編と五句を課しましよか

秘めた思いは初日のように
燃えて燃えて燃え尽きて
灰になろうが成るまいが
そりゃ！ 気合い一発炬燵を抜けて
飛びだす世間は うーっさぶい

III 旅鳥

鳥が一羽飛んで来た
冬將軍の風に乗り
ぐるっと回って流されて

鳥が一羽飛んで来た
道祖神のその上で
ぐるっと回って向き変えた
そんなに高くは怖くはないか
真っ赤な空は熱くはないか
夕焼け雲にぶつかると

何処へ行くのも風まかせ
それともここで迷ったか
広い空には道はない
鳥が一羽飛んで来た
北風木枯らし山おろし
ぐるっと回って行っちゃった

鳥が一羽飛んで来た
遠く山越え雲越えて
カアとも鳴かず行っちゃった

II 鴨一羽

長い旅で疲れたか
龍神池の片隅に
ぷかりぷかりと鴨一羽

凍てつく夜は何処にいる
腹が空いたら何食べる
ドジョウもカエルも土ん中
餌が少しですまないが
さあさ早くここへ来て
旅の話をしておくれ

春に来ればよかったに
友たち一人もいなくても
野に咲く花は奇麗だぞ

夏に来ればよかったに
秋に来ればよかったに
何故に冬に来たのかね
龍神様に食われる前に
さあさ早くここへ来て
旅の話をしておくれ

VI 水をやる

一番星が出る頃は
誰もがみんな寒そうに
仕事も無いのに歩いている
背中丸めて寒そうに
黙って下向いて歩いている
家を見つけた貧乏神は
炬燵の中でぬくぬくと
家主の帰りを待っている
たった一人でぬくぬくと
夢心地で待っている

星が沢山出る頃は
西の空は暗くなり
鴨も鳥ももういない
足元すっかり暗くなり
散歩の人はもういない
たたいま・・・ふう！
何かが違う気がしたが
気のせいかと水をやる
いつもと違う気がしたが
萎れた花に水をやる

孤独じゃないよ

Sho-T

孤独は 人里離れた 山の奥
そこでは 人目がないから ほっとする

孤独は ビル風の吹く 大都会
他人の 冷たい視線 無言劇

ほんとは 孤独じゃなくて 孤立だよ
価値観 合わない知り合い 多すぎる

小さな ことでも 妥協 一歩ずつ
ひと声 かけよう 明日は 自分から

孤独は リア友いない スマホゲー
そこでは 時間つぶしが 楽しめる

孤独は 未婚のままの 四十路過ぎ
死んだら 葬式出せる 人いない

ほんとは 孤独じゃなくて 自由だよ
束縛 されずに 余生を 楽しめる

小さな 趣味でも 生き甲斐 一つずつ
時代の 流れの せいには しちゃだめだ

薔薇色メモリー

坂井まゆ子

ワインなら ロゼが好き
きれいでしょ

グラスに注いで 透かしてみるの

世の中が 薔薇色に
見えるでしょ

窓辺の椅子に 座って見てるの

薔薇色の 雲の向こうで
あのひとが 笑顔みせてる

いつだって 思い出のなか
あのひとは 微笑みてるの

西の空 三日月が
きれいでしょ

いちばん星が 寄り添ってるわ

世の中の いやなこと
忘れましょ

ガラスの窓に 私が映るわ

薔薇色の 雲が消えても
明日は来る 夜を越えれば

一人でも 孤独じゃないわ
あのひとの 思い出がある

僕は日本語を話せません

四谷 文

口をどうにか動かしたけど
会社の上司は僕を見下ろし
「まるで日本語になってないね」
と鼻で僕を笑ったのです
僕は言葉と話したつもり
なのに人には聞こえないみたい

みんなの言葉は聞こえているのに
僕の言葉はいつも届かない
みなさん、これは歌になってますか
僕は日本語を話せません

君が好きだと言ったけれども
目の前の子はため息ついて
「あなたにいい人みつかるかしら」
と虫を見る目で僕を見たよ
僕は親身に話したつもり
なのに相手は気持ち悪いって

みんなの言葉は聞こえているのに
僕の言葉はいつも届かない
みなさん、これは歌になってますか
僕は日本語を話せません

人はみんな孤独です

小田ともひさ

人はみんな孤独です
パンドラのハコを開けたそのときから
人はみんな孤独です
お金があろうがなかろうが
地位があろうがなかろうが
人はみんな孤独です

人はみんな孤独です
この世に生を受けたそのときから
人はみんな孤独です
善人であろうがなかろうが
才能があろうがなかろうが
人はみんな孤独です

人はみんな孤独です
あなたの命とちがう私の命
別々の命を持つかぎり
愛があろうがなかろうが
情けがあろうがなかろうが
人はみんな孤独です

人はみんな孤独です
だからあなたはあなただけの命を
自由に使って生きればよい
思いどおりに生きればよい
あなたの生き方きめるのは
他のだれにもできません

孤独な太陽

聖川 泉

ひとりぼっちは さみしいと
夕陽を見つめ 泣いた時
空を渡る 鳥達が
しあわせそうに 見えました

鳥よ あなたは
自由に 飛べる
私を 置いて行かないで
あの人元へ 連れてって

思い出すのは 涙の歌声
きっと誰もが 孤独を抱えて 生きている
明日へと向かって 夕陽よ沈め

ひとりぼっちがお似合いと
鏡の中で つぶやけば
こんな時も あるからと
心の中で ささやいた

私 あなたの
その胸の中
涙もいっしょに 泳がせて
安らぎの中へ 連れてって

思い出になる 昨日のステージ
きっと誰もが 明日を夢見て 生きている
未来に向かって 朝陽よ昇れ
涙も孤独も 光に溶かそう

Rock&Rollで生きてこう

中田のぞ美・t・

ひとりきりで 寂しいならば
好きなだけ エレキを弾けばいい
どうせ彼女も 見放してる
ひとりきりなら ロックを弾けばいい

ジミー・ペイジに なりきって
ちょっと音 ズレてるけど
気にしないで
陶醉する

year! yeay! Let's go!
Rock'n'Rollで生きてこう
シャウト!

ひとりきりで 辛いならば
好きなだけ エレキを弾けばいい
どうせ恋人は エレキだけ
ひとりきりなら ロックを弾けばいい

ジミヘンに なりきって
Guitar 壊して
火をつけるけれど
ビビりながら

year! yeay! Let's go!
Rock'n'Rollで生きてこう
また お金貯めて
エリック・クラプトンばりの
Rock'n'Rollな Fender買おう

善と悪

泉川正樹

目の奥に闇を抱える君は
心も汚れている
真っ白な朝が嫌いな君は
夜中を好んでいる

透けた心硝子の様に冷めた心氷の様に
外に出れば歌の様に光る鋭い視線

悪に染まる魂を葬ってくれ
消えて許されるものならば
楽になれる方法は他にあるのか
人を冷血に扱うものには痛みが走る
腐った肉の塊を食らう虫けらども

欲望に翻弄される君は
心も支配される
考える事が出来ない君は
人に流されるだけ

透けた心硝子の様に冷めた心氷の様に
外に出れば歌の様に光る鋭い視線

善に染まる身体に永遠の命を
生きて報われる時までは
愛をもらう喜びは言い尽くせない
人に恩恵を与えるものには崇拝される
光った石の塊をまとう天に向けて

花咲く小径

吉沢弘子

この道 駆けてゆけば
会えそうな 気がするの
待っててください あなた
いとしい人よ

I love you so much.....
I love you so much.....

ピンクの 花の小径
思い出が よみがえる
忘れはしないわ あなた
やさしい笑顔

I love you so much.....
I love you so much.....

うぐいす ホーホケキョと
歌ってる 春の歌
誰よりいとしい あなた
もいちど会いたい

I love you so much.....
I love you so much.....



作詞(歌の歌詞)作品募集

将来性の高い作品にはこのコーナーで^{コメント}講評します。とりわけ優秀な作品に対しては、プロのミュージシャン・シンガーソングライターなどによる作曲と編曲でボーカル入りのデモCDを制作することがあります(必要に応じて補作詞が入ります)。

デモCDは基本的に音楽出版社・レコード会社等への売り込みに使用し、作詞者にも同じCDを3枚お送りします。

- 内容……作曲されて歌われることを前提とした歌詞
- 作品規定……A4判400字詰原稿用紙に横書き
(ワープロ印字用紙も可)
題名・作者名・サビ・空行を含めて、20字×30行以内
第1行に題名、第2行下方に作者名、本文は第3行から書き始めること

- ・マイ詩集の同人番号は用紙の右上余白に明記して下さい。
- ・課題テーマ作品についてはP19を参照して下さい。

- 受付期間……3月1日 - 4月5日 (掲載: 5月発行の5月号)
- 送り先……〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集2月号 作詞ワークショップ係
メール 登録アカウント@my-shishu.com
題名: 5月号作詞ワークショップ係

このコーナーの作品と^{コメント}講評は、本誌同人専用スペース「作詞発表係」および「テーマ作品発表係(作詞部門)」を中心にしています。

現世乱歩

妖しの字は
昔 むかしは
可愛かった
女房 大の字
ちよいと けなせば
妖しく 目が光る

峠の字は
上と 下に
挟まれてる
会社で 遭難
越すに 越せない
峠の 係長

品という字
女の 口が
三つつあるね
洋服 バッグ 靴
何の 品定め?
「未来の 夫です」

会社の字は
土に 根っこ
張るんだって
会うたび 言った人
左遷で 引越した
今では 畑暮らし

今という字
ラララ……若い日
楽しかった
今では 傘かぶる
それでも いつでも
お日様の 笑顔だけ

ふたりの季節

—ふたりの結婚式でうたう歌—

涼木由真

春 さくら色 花びら舞っている
夏 青い海 潮風ふきぬける
秋 もみじ色 野山を染めあげる
冬 白雪 しんしん降りつもる

どんなに時が 流れても
わたしの心の キャンパスを
やさしい色で ぬりかえる
それは あなたの 微笑み

いつでもあなたの 笑顔みせて
昨日も今日も 明日も

春 花吹雪 お花見続いている
夏 青い空 飛行機雲走る
秋 ^{こがね} 黄金色 イチョウの雨が降る
冬 銀世界 朝陽を待っている

ときどき遠くに 離れても
わたしの心の キャンパスを
やさしい色で ぬりかえる
それは あなたの まなざし

いつでもあなたと 見つめあって
昨日も今日も 明日も

今月号の作詞作品から…

(作曲・編曲家) 有海治雄

皆様。寒中お見舞い申し上げます!!
…というのが、変なくらいの暖冬ですね。
地球は、いったいどうなっているのでしょうか(´◇`);

さて、回を増す毎に皆さんの作品のクオリティーがアップして、
拝読していて楽しいのですが、
最後の選考には本当に脳味噌が爆発しそうです(笑)

東京オリンピックも控えて、今年はどうな年となりますでしょうか。
次回も、皆さんの力作をお待ちしております。

最優秀作品賞	「花咲く小径」	吉沢弘子 さん	(P 41)
最優秀作品賞	「善と悪」	泉川正樹 さん	(P 41)
テーマ部門賞 〈孤独〉	「薔薇色メモリー」	坂井まゆ子 さん	(P 34)
テーマ部門賞 〈好きな色〉	「ふたりの季節」 —ふたりの結婚式でうたう歌—	涼木由真 さん	(P 43)
ユニーク賞	「字遊び II」 「冬は鍋物」	現世乱歩さん 涼木由真 さん	(P 43) (P 45)
特別賞	「人はみんな孤独です」 「僕は日本語を話せません」	小田ともひささん 四谷 文 さん	(P 36) (P 37)
努力賞	「孤独じゃないよ」 「グリーン・バンダナ」 「笑うっきゃない」	Sho-T さん 佐藤弘基 さん 片野ちえみ さん	(P 35) (P 45) (P 47)

グリーン・バンダナ

佐藤弘基

森に林に 山に丘
緑の大地に ホットする
ノスタルジックな 光景が
僕にやすらぎを 与えてくれる

いつもあなたを 見ていると
心がとても 豊かになる
緑の果実が 成熟する
僕的心も 成長する

大自然の 恵みを受けて
木々や草花 成長する
あなたに向かって 伸びていく
ロマンス色の グリーン・バンダナ

極彩色のエメラルド
色鮮やかで ハットする
ロマンとやすらぎ ちりばめて
緑色に shinning

ロマンティックな 世界を求め
緑のバンダナ しめる僕
あなたの愛を つかみたい
やすらぎ感じて 眠りたい

あなたがくれる やすらぎが
ノスタルジアへと 僕をいざなう
優しく包容力のある
やすらぎ色の グリーン・バンダナ

冬は鍋物

涼木由真

ハクサイ ダイコン
シュンギク キャベツ
ネギ コマツナ
ハウレンソウ

シャケの切り身で 石狩鍋
鶏のお団子 つくね鍋

冬は鍋物 栄養たっぷり
体はポカポカ 心に花が咲く
みんなで一緒に いただきましょう

ニンジン サトイモ
シイタケ シメジ
ユズ おとうふ
糸コンニャク

寄せ鍋 カキ鍋 キムチ鍋
モツ鍋 ミソ鍋 ちゃんこ鍋

冬は鍋物 ビタミンいっぱい
体にやさしく 心に花が咲く
みんなで一緒に いただきましょう

あれれれれ? お椀が 一つ足りない
いつのまに 人が ふえたのかしら
もしかして 誰かが 座敷童子……

■ 花咲く小径 吉沢弘子 さん (P41)
シンプルかつストレートで、とても良くまとまった作品だと思います。

■ 善と悪 泉川正樹 さん (P41)
勢いあって、今風のロックサウンドをイメージさせてくれる作品ですね。

■ 薔薇色メモリー (テーマ 孤独) (テーマ 好きな色) 坂井まゆ子 さん (P34)
ささやかな想い。グッときますね。
今度ロゼを飲むときに思い出すかもしれません。

■ ふたりの季節 涼木由真 さん (P43)
—ふたりの結婚式でうたう歌— (テーマ 好きな色)
春夏秋冬の色の移り変わりが良い感じですね。

■ 字遊び II 現世乱歩 さん (P43)
メッセージを有り難うございました。
楽しいコンセプトだと思います。漢字の勉強になりますね(^_^)

■ 冬は鍋物 涼木由真 さん (P45)
とってもリズムカルで楽しいですね。
そしてラストのオチ!! オカルトシリーズへの返歌でしたね(^ ^)
→現世乱歩さん「ホラホラホラーオカルト」(8月号 P66)

■ 人はみんな孤独です (テーマ 孤独) 小田ともひさ さん (P36)
なんだか、とても、仏教の真髄に近いような作品ですね。
とはいえ、私は特に宗教をやっている訳ではありませんが、
お釈迦様の言葉は、とても勉強になります。

■ 僕は日本語を話せません (テーマ 孤独) 四谷 文 さん (P37)
ちょっと過激な発言をさせていただきます(^_^);
個人的に「奇人変人バンザイ」です。
年々、強くなっている感の日本特有の「同調圧力」の中では、
優れた人材も生まれにくいし、いじめ問題も解決しないと思います。
作品に流れるお気持ち解ります。

■ 孤独じゃないよ (テーマ 孤独) Sho-T さん (P35)
すみません。歌詞としての作品のコメントよりも内容の感想になりました。
まさに今の日本が抱えている現状ですね!!
特にロストジェネレーションと呼ばれる世代の悲鳴にも聞こえました。

■ グリーン・バンダナ (テーマ 好きな色) 佐藤弘基 さん (P45)
もしや、バンダナシリーズのグリーン版でしょうか。
楽しいコンセプトだと思います。
欲を言うと、曲中でフワ〜っと展開するようなサビ部分が欲しいかなと思いました。

私が好きな茜色

小田ともひさ

私が好きな茜色

朝日にそまる雲の色

希望がふつふつ湧いてくる

今日も一日頑張ろう

生きる力を満してくれる

生きる勇気をあたえてくれる

私が好きな茜色

夕日にそまる雲の色

生きる喜び満してくれる

楽しく生きた一日も

失敗に悩んだ一日も

それでいいよとなぐさめてくれる

私の好きな茜色

朝日にそまる雲の色

夕日にそまる雲の色

生きる喜び満してくれる

悲しみをわすれさせてくれる

生きる希望を満たしてくれる

私の好きな茜色

朝日にそまる雲の色

夕日にそまる雲の色

笑うっきゃない

片野ちえみ

※ そろそろリタイア 考えて

若い漫画家に そのページ

ゆずりませんか ねえ先生

ベテラン漫画家 おえらい先生

アナタの描いてる 小学生

大人の目鼻が ついている

ヘアスタイルも 古いけど

どのコマ見ても 顔アップ

※ くりかえし

服のデザイン 古すぎる

手足のデッサン 狂ってる

仕事が早けりゃ それだけで

話がヘンでも 許されちゃう

※ くりかえし

カラーページは 大評判

素人さんには わからない

デッサン表情 なにもかも

色でごまかせる それがカラー

※ くりかえし

ベテラン漫画家 多すぎちゃって

新人漫画家 居場所なんかない

雑誌の読者も ベテランばかり

仕方ないのよ 笑うっきゃない

■ 笑うっきゃない

「ギョーカイ暴露ネタ」楽しいですね(*^_^*)

片野ちえみさん

(P47)

■ Rock & Rollで生きてこう (テーマ 孤独)

中田のぞ美・t・さん (P38)

編集部より注釈を頂きました。
『「シャウト」のあとに付いてるのはドクロマークの絵文字でしたが、
出版用フォントには絵文字データがないので「！」に置き換えてあります。』
ロックミュージックの発生に通じるかの反骨精神。良いですね。
ジミヘンもジャニスもきっと孤独だったのだらうと思います。

■ 孤独な太陽 (テーマ 孤独)

聖川 泉さん (P39)

とてもストレートで好感が持てる作品ですね。
あくまでも私感ですが「鳥になって飛んでいきたい」的なタイトルやテーマの方が
イメージが広がるかと思いました(^ ^)

■ 私が好きな茜色 (テーマ 好きな色)

小田ともひささん (P47)

私も朝日や夕日が大好きです。
欲を言いますと「私が好きな茜色」はタイトルで出ているので、
各コーラスの冒頭の部分ではない方が良いかも、と思いました。
コーラスのシメの1行でも良いかな？ と思いました。

■ 思い出の色 (テーマ 好きな色)

吉沢弘子さん (P48)

心がホンワカするような作品。素敵ですね(*^_^*)

■ 白と黒 (テーマ 好きな色)

片野ちえみさん (P48)

コンセプトが面白い作品ですね。
ちなみに私は、黒が多いです←あ、関係ないですね(^_^;)

■ 人生これから

小田ともひささん (P49)

小田さんご本人の事でしょうか？
そうでなくとも、元気が出る作品を有り難うございます(^ ^)

■ weak

泉川正樹さん (P49)

ぎゅう詰の歌詞ですが、特有のリズム感があっていい感じですね。

■ 世界を網羅

泉川正樹さん (P50)

躍動感ある言葉でパワーを感じる作品ですね。
思ったのですが、タイトルを「Black Shadow」にしても
カッコいいかなと思いました(^_^;)

■ ホステスさんのホステス

中田のぞ美・t・さん (P50)

返歌というスタイル。
→ 涼木由真さん「夢をめざして—クラブのママのひとりごと—」(11月号P37/P83)
ホステスのホステスというピントは面白いですね(^ ^)

それでは、次回も、皆さんの力作をお待ちしております(´▽`)

weak

泉川正樹

愛しい名前を繰り返し呼ぶだけで幸せ
今の僕にできることはそれくらい
紫に迫る目の前の空は綺麗で夜になる
刻々と時間は過ぎて日は溶ける
君に見落とされた言葉は 誰かに踏まれてく
その言葉を悲しそうに僕は見る
汚れた大切な言葉に気づいてもらいたい
本当の気持ちと態度は逆だから

大切な人だから傷つけてしまう
この心の弱さに今も流される
偽者の夢ならば誰も描かない
ただ何気ない日々にも戸惑ってる

何か行動を起こせば状況は変わるのか？
小さな存在だけど夢を見てる
忘れてしまうと記憶が騒いで眠らせない
重たい空は君を想ってるから
言葉じゃ足りないから目と目で話せば伝わる
気取る台詞は僕に似合わないから
物語は始まったばかり悔いのない様に
歩いて行きたい今から出来るだけ

大切な人だから優しくできない
この素直になれない今を壊したい
真っ直ぐな一言でこれからが変わる
ただ伝えよう君に本当の気持ちを

人生これから

小田ともひさ

古希になりました
まだ「寿」の文字付いてません
まだまだ^{ことほ}寿ぐ年ではありません
やりたい事が山ほどあるのです
じっとしてなどいられません
これからが私の本当の人生
これから花を咲かせます

古希になりました
まだ「寿」の文字付いてません
まだまだおいぼれてなどいられません
夢も希望もいっぱいあるのです
やる気も元気もいっぱいあるのです

これからが私の本当の人生
これから花を咲かせます

古希になりました
まだ「寿」の文字付いてません
まだまだじっとしてなどいられません
食欲精力いっぱいあるのです
心も体もわくわくしてます

これからが私の本当の人生
これから花を咲かせます

まだまだじっとしてなどいられません！

白と黒

片野ちえみ

白い服 身にまとう
純粋に 見えるよね
友だちが ふえていく
だから白 白がいい

幸福の きっかけは
半分が 作り笑い
少しずつ わかってきた
真実の 裏の姿

すべての色 はねかえす
それが白
夢だけ見せ 疲れさせる
それが白

黒い服 身にまとう
なんとなく ホットする
友だちは 距離をおく
それでいい 黒でいい

いままでの 人生は
半分が 黒歴史
だからこそ わかってきた
本物の 愛の姿

すべての色 受け入れる
それが黒
あらゆる罪 ゆるしている
それが黒

思い出の色

吉沢弘子

グリーンの サンダル
小学生の 私に
おばさまが 買って くださいました

グリーンの サンダル
「春らしくって すてきね」
母さまも やさしく ほほえみました

足取りも 軽やかに
庭先で スキップ
そのまま 野原に 出かけてました

まっしろな ワンピース
12才の 私は
文化祭の 舞台上で 歌ってました

まっしろな ワンピース
「妖精みたいで かわいい」
友だちの 言葉が 聞こえてました

ソプラノが むずかしく
二週間 レッスン
努力が ようやく むくわれました

こどもの頃の 思い出の色
瞳を閉じれば よみがえる

やさしい香り アロマテラピー
思い出抱いて 眠りましょうね……

SONGWRITING BASIC 1



FOR BEGINNERS

はじめて作詞をする？

右下のフレーズと比べてみてくれ

A (3字) 4字
A (4字) 3字
A (7字) (3字+4字)

A アイの言葉は てれくさいから
A 言いたいとき 言えない

A キミは近視で 僕のまなざし
A 読み取ることは できない

有海さんの作詞ワークショップも しっかり読めよ！

はこ...

●作詞には、三つのお約束がある。メロディーやリズムに乗りやすいように、ね。
一、**字脚をそろえる**。二、**1番と2番のフォームを整える**。三、**サビでリフレインする**。

●作詞って、一種の定型詩なんだよね。童謡や演歌はたいして七五調だから、わかりやすいと思う。ポップスやロック系の歌詞は、ちょっと見 自由詩に近いけど、A×ロ・B×ロ・C×ロとかの、幾つかのブロックから成り立ってる。どのブロックも、単語の字数の組み合わせが揃ってるんだ。1番のA×ロも、1行目3字3字4字3字、2行目4字4字3字なり2番のA×ロも、1行目3字3字4字3字、2行目4字4字3字、これが、**字脚(字足)をそろえる**っていうこと。

●歌っていうのは、基本的に1番と2番がある(3番以降もよくある)。歌いやすく覚えやすいように、1番と2番は、同じメロディーで歌う。1番と2番は、音符の数も小節の数も同じ。だから、1番のA×ロB×ロ...と、2番のA×ロB×ロ...は、字数も行数も同じ組み合わせにする。これが、**フォームを整える**っていうこと。1番と2番で同じフォームを使うんだ。A・A・B(サビ)【A・B・C(サビ)】【C(サビ)】A・B・C(サビ)とかの色んなフォームがあるよ。

●いちばん訴えたいことは、繰り返しアピールするのが、歌の歌詞なんだ。だから、**サビは必須事項**。1番と2番で共通のフレーズを使うようにしようね。

曲に乗れるなら ちよつとくらいのこと 字余りは許される...けど 基本を覚えてからにしてくれよ...

私 初心者なんです すみせんすんすん

自由詩と、どこが ちがうんですか？

アイシテルなんて てれくさいから なかなか言えないんだけど キミは近視だから 僕のまなざしを 読めないんだよ

世界を網羅

泉川正樹

高ぶった本能に身を任せて
踊り狂う
君の深まる謎に嘘を吐いて
笑い叫ぶ

死の予告 死の香り どれも素敵

涙を浮かべて血迷う
うっとり希望の夢の中へ

目まぐるしい世界は衝撃的で
とろけそうさ
黙示の伝言で魂を燃やし
生は戻る

美の空虚 美の景色 それも素敵

美しさ抱えてさ迷う
しっとり悲劇の闇の中へ

Black shadow は映らない
Love win それだけは真実

ホステスさんのホステス

中田のぞ美・t・

玉虫色に光る 夜の街が好き
訪れたクラブ 私の隣に グラマラスな女の子
先に酔って しまった彼女 愚痴が出てくる
「もう一杯」 グラスをテーブルに 叩きつける彼女

2滴の バーボン 水の水割り 作って
背中 さすって 「大丈夫よ」
励まし 飲ませて 高い金 出し
どっちが 客だか 分からないじゃないの

※ もしかして モテてる？ 私
ホステスさんの ホステスに
また なっている ア〜ア

会社の二次会 訪れたキャバクラ
私の隣 ホステスさん挟んで 男性社員
彼女の胸を さっきからずっと さわっている
お仕事だから 嫌ですなんて 言えない彼女

「何を してるの！」 男の手を 叩きつけた
お店は 静まり返り 気づいたら
彼は 隅っこで一人 お酒を 飲んでる
私の周り 7、8人 ホステスさんが囲んでる

※ くりかえし

ピンク パープル レッド ゴールド
それぞれの 衣装 身にまとい 「お仕事よ」
みんな プライド 持って 働いてる
頼むから 私を お客扱いして！ お願い♡

自由詩とのちがい

字脚・フォーム・サビ

自由詩を書ける人なら
それを活かすコツがある！

まず短めの自由詩(8行〜10行)を書こう。
これを歌詞の1番とする。フォーム
A×O、B×O…の構造を意識して
A B C…の各ブロックは、
1行か2行(多ブロック同し行数)で
内容が完結するようにつまめていこう。
A B C…のメロディは、長くても短くても
基本的に8小節単位で構成されている。
1行の長さに差がありすぎると、字余りや
字足らずで歌いにくくなるから注意して。

次に、1番の言葉と字数がぴったり
合う言葉をつなげて、2番を作る。
例えば、1番の出だしが
真夜中の 高速
フルスピードで 駆け抜けてく
なら、2番の出だしは
明け方の 海岸
ヒヨドリ達が 北に向かう
平仮名で数えるのとぴったり合うよね。

同じ字数で区切り目が来るように
1番2番は最後まで字数を合わせる。
これが「字脚をそろえる」ってこと。
場合によっては、1番の歌詞を修正。
サビのフレーズなど、ポイントになる所は
1番で形容詞+名詞なり
2番も形容詞+名詞で、品詞も合わせてみる。
ノリがいい歌じやすい詞になるよ。



SONGWRITING BASIC 2



作詞の場合もね、美味しいところは出し惜しみしちゃダメなんだ。
この歌いぞって聞き手のハートをキャッチするのは、時間的に早いモン勝ち。
伝えたいメッセージやストーリーは、歌詞の1番だけで一応完結させておこう。
TVの歌番組でも、時間の都合で1番しか歌わなかったりすることが多い。
ラジオのDJだって、曲の1番を聞かせた後、それ以降はBGMにしてトーク。
3番でまた曲だけ流す…ってパターンが多いからね。
歌詞は、1番より2番のほうが美味しいみたいなのが作り方はしないのさ。
1番2番…と進みながらストーリーが変化する歌詞もアリだけど、
詞にも曲にも高度なテクニクが必要なんだ。
ふつう、1番2番…は同じメロディを繰り返す。
明るく楽しいメロディには楽しいような詞が合うわけで、
哀しい感じの詞では合わない。
1番で出会いのうれしさ2番で別れの哀しさ、なんて詞では、困っちゃうよね。
基本は、歌詞の1番だけでストーリー完結。
2番3番は、1番の別バージョンのつもりで作ってみよう。
わかりやすいのは、1番に出てくる情景や小道具を多少入れ換えて
1番と同じメッセージを(サビで)繰り返す、っていう構成だな。
ex. ♪1 授業中の教室 教科書見ている
♪2 昼休みの校庭 お弁当食べてる
同じ情景や小道具や人物でも、角度を変えて描写するとか…
ex. ♪1 君のてのひらの温もり
♪2 君のハちつけの優しさ
同じ状況で時間をちょっとだけ
進めて、なんてもアリかな。
ex. ♪1 公園で待ち合せて出会う
♪2 公園を手をつないで歩く
プロの人の歌詞や、
作詞ワークショップに載ってる
優秀作品も研究してみようね。



『作詞ワークショップ実践編』として
マイ詩集の同人のみなさんの
発表作品の中から選ばれた作詞は、
プロのミュージシャンによる
補作詞・作曲・編曲・レコーディングを経て
デモCDになっています。
優秀作品のCDは定期的に制作しています。
オリジナルの作詞が歌に仕上がっていく過程や
作詞のポイントなども、
曲の担当者、詞の担当者が
誌上で紹介していきます。

MY詩集作詞ワークショップCD vol.4

【BOY～欲張りに夢を抱えて走る君の歌】 【生きてる証】

作詞: 北森耕太郎 / 松下あけみ

作曲/編曲: 有海治雄 歌: 有海治雄

通信販売のお申し込み

頒価: 送料共 1000円 (2曲入り)

現金書留・切手代用(100円切手X10)・銀行振込(三井住友銀行高円寺支店 普通1279529)

〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集 作詞ワークショップCD通販係

editorsroom2@my-shishu.com メール題名…作詞ワークショップCD通販係

マラッカのトカゲ

浅尾長房

I

インドネシアの焼き畑の煤煙で
夏から秋にかけては曇天の日が続くと言っ
運河の入り組んだ古い街は
かつて海上交易で栄えたが
近年は海賊で有名になっている
棧橋で市街に向かう水上バスを待っていると
裸足の少女が半分枯れたバラを売りに来た
汚れたマスクをしているのが可哀想で
百リンギット札を渡したら困った顔をした
おそろくつり銭がないのだからと思つて
少女の手に握らせたらにっこり微笑んで
「シエエ シエ」と言った
中国人観光客も多いのだからな
と思つて訂正はしなかったが
昔だったら「アリガトウ」と言ったのに
と思つと妙な敗北感に襲われた
やがてカラフルな水上バスが到着し
観光客を吐き出した
私は半分枯れた赤いバラを持って乗船した

II

水上バスは曲がりくねった運河を這い回り
慌てた岸辺の小動物が川に飛び込んだ
日本人は私だけのようだったが
川に張り出したマングローブの上から
大きなトカゲが私を見ていた
日本では爬虫類は嫌われ者だが
ここではその存在を誇示しているようで
頼んでもないのに私を守ってくれてるようで
不思議な親近感を覚えた
単身赴任の味気無さに飽いていた私だが
帰国したところで何があるのか
トカゲが話相手になつてくれるのか期待して
半分枯れたバラを投げたら 水面に落ちて
別のトカゲがそれを食べた
上等だよ 私はなんだか嬉しくなつた
小さな女の子が真似をしてお菓子を投げたら
父親にひどく怒られた 悪意はないのに
怒られた女の子がたまらなく可愛く思えた

III 色

その男は枯れかかった赤いバラを持っていた
ジエームスボンダ気取りなのが可笑しかった
が恐らく日本人だろうと思つた
かつてはここにも多くの日本人が訪れたが
彼らはこの街と私をただ通り過ぎただけ
少女に花売りを教えたのは
それで空腹が満たされるわけではないけれど
盗んでばかりいたらいつか腕を
切り落とされるから
この地に住み着いて幾年月
かつての硝煙の臭いは煤煙に変わり
日本人は中国人に代わつたが
この地の民が辛酸を舂めるのは変わらない
自分たちが好かれていると
大きな誤解をしているのは日本人だけ
少なくとも少女は感謝している
船籍不明の海賊ボートが少女を乗せて
沖へ去つていった

父の最後の息を聞いた
それはまるで 呼びかけに
応えるかのように――
もう一度呼べば 瞳が動いて
冥い瞳は光の色を取り戻す――
そんな 儚い幻想を懐いていた
栄養ゼリーと点滴のみで
生き存えた このひと月は
枯れ葉をすっきり落としたり
細枝のような指の隙間から
生の沙が少しづつ零れていった
愁いを滲えた眼差しと
黄昏を纏ったまるい背中と
微かに洩れる濁いた声と
昨日の記憶の何もかも
荼毘の炎に燃え尽くされて――

ゆれのぼる影は
薄暮の空へと消えゆき――
無限に開かれた 永遠のその場所で
薫る歌が――縷々と流れている――。

秋の蝉

清水将一

うなげ

現世乱歩

おまえは弱々しく鳴いている
興格に譲ってもいい音の世界
まだ譲らぬと言わんばかりに
力を振り絞る様に鳴いている
夏のおまえの一日は長かった
過去を振り返っても仕方がない
残された命を燃え尽くすように
日暮れが来るまで鳴いている
弱々しい声で鳴くおまえの前に
昆虫網の少年は見向きもしない
やがて鳴かなくなつたおまえは
地面に転がり冬の風に晒される
私の人生の秋も近づいている
私もいつか命尽きる時が来る
弱々しくとも私らしく生きたい
その時何処に転がっているだろう

「私は師の最後のお弟子さんです」
ことあるごとに名刺のかわりに言う
「そうですか それはそれは」
と決まった形で切り返してくる
その度にその影でこんな言葉を言ってみる

この人は師を知らない人だ
師は決して弟子を持つ様な人で無かった
「君、いくら若くても詩を書く以上は 敵であり仲間だ。」
とあのくぐもった声で言われた
いまだ未来をも持っていない青年にだ
その時から私はこの人の影を歩こうと思った

ただ誰か年に一度くらい
青雪積る蔵王の上のあの空を見上げた時
ふと花の一つかみくらゐ幕前に
手向けていただけたちと切に思う

「洋品店で
つややかな飾りボタンを見たとき
初めてしみじみ
ああ戦争が終つたんだと実感したよ」
そう五年前に話してくれたね

今は認知症が進み
車イスに乗り桜の精と遊んでいる人
「警沢は敵だ！」を合言葉に
きれいな品おしゃれな品はみんな消えた
軍服と黒煙の中へ……そういう時代だった
ひざ掛けの上へ止まった花びらを
うれしそうに食べよつとするあなたの手に
そつと手を重ね 私胸の中でつぶやく
伝えるよ あなたが感じた女の終戦
だつてこの耳で聞いてしまったもの
まぶしそつに目を細め
誰へともなくあなたは言う
「やぐらきれいなね」

梅の花にメジロ

ブルバール

梅の花が咲くころ

私はカメラを持って

梅の花がたくさん咲く

大宮公園へ行く

メジロの チーチーと鳴く声が

聞こえると 胸がわくわくする

あっ メジロが花の蜜をすっている

今だ 夢中でシャッターを切る

白い梅の花とメジロ

絵になるんです

大晦日

ふじお

今年も もうすぐ大晦日

一年の終わりを 迎える

一年を振り返り

さまざまな出来事や思い出に 会いに行く

一喜一憂 悪戦苦闘 喜怒哀楽

いろいろあったな

一生懸命に 頑張ったことも

少しだけ 手を抜いたことも

三百六十五日

充実した日々を 送れたらどうか

でも 満腹感に欠けるな

何か少し ものたりない

反省している

「来年こそは……」と

期待感をもって祈った

でも 確か 去年も 一昨年も その前の年も

同じことを考えたな

何も実行できない自分が嫌だ

大晦日なんか 嫌いだ

きれいな着物を着て

吉沢弘子

公民館で 踊りの発表会があり

ちえこちゃんと ようこちゃんと 私で

きれいな着物を着て

「花嫁人形」を踊りました

ステージの上では

座ってから せんすを前に置いて

深くおしぎをしてから

せんすを帯にさして 踊り始めます

曲にのって みんなも 私も

いっしょうけんめいに 踊りました

懐しい貴方の文字に

心なわめへ

年賀状欠札ハガキの

懐しい貴方の文字に

心なわめへ

春

雪した桜

寒いね……

ふじお

比叡の山

心にうかがふ

春を待つ

時が打つ

早春の色

空かける

色聴や

春の山彦

目を覚ます

青空

小田ともひさ

メッセージは すべそ(う)に

サラ寛美

青空を

穴のあくほどながめてみても

ただ一個の星も見えてはこなかった

青い海を

じっと見つめていても

ただ一つの魂さえ浮かんでこなかった

夜空を見上げると

満天の星が見えるのに

闇を見つめると

無数の思いが浮かんでくるのに

寒いね……

そりゃ 冬だもの

小雨 しとしと 北風 ぴゅつぴゅつ

空気も冷え冷え

お寒 小寒

寒すぎて ついつい

身体がまるくなる

歩くときも

夜 布団の中でも

まあるくなってしまうよ

だって 寒いんだもん

「いかん いかん まっすべしなきや」

と思っても いつの間にか

背中がまあるくなる

エビみたいに

まあるくなってしまう

寒いから仕方ないよね

猫だって

炬燵でまあるくなってる

人間だって

寒けりゃ まあるくなるよ

だけど 春になったら

まっすべ歩こう

まっすべ寝よう

まっすべ まっすべ

背筋を伸ばすんだ

一方通行ではあるが

私の目の奥に入ってきた光の色で

各々神様が会いに来てくれた、と信じている

手帳に日々の思いを書いてきたのと

たまたま高野山へ行ったのを機に

今年になってからは

わからなかったことが

なぜか気がついて 解るようになってきたのだ

なぜ 今ごろなんだろっ

私が私に気がついたら、ある時、

私の描いた絵の中に『本当の私』が

顔をあらわして

いつも一緒なのだと思えた

心の拠りどころは外じゃない

答えはここだっ 内なる自分がいつも

助けてくれてるんだ

確信したところで

私の仕事では これまで出会ったことのない

生きつらさを背負って生活している

苦労人たちが目の前にやって来ていた

ああ…… ますます 試されているっ！ 私

僕のお楽しみ

岡田 尚

花緑・三平・白酒
三人会

2019年3月10日(日)
14時開演
13時30分開場

パティオ池鯉鮒
(知立市文化会館)
かきつばたホール

¥3、700

1階 N列 26番

出演

開口一番

桃月庵白酒

子ほめ

林家三平

紀州

中入

ヒザ代わりで

クイツキは

桃月庵白酒

代脈

トリは

柳家花緑

妾馬

桂 はげではなく

...

...

私じゃ
ないけど

...

「パパは？」

「先月

代わったよ」

庭のもみの木

寺崎克志

庭の樅に 別れを 告げて

郷里くにを出たのは 十年昔

お前もまた 都会へ 行くのか

風に泣いてた 老いた 樅の木

帰ろうと 思えば誰も

引き留めないのに 都会に 溺れた

庭で撮った 写真が 届く

父と母と 老いた 樅の木

淋しくって 故郷の ことを

思い出すたび 枕が濡れる

なんでこんな 意地を 張るのか

どこまでやれば 自分を褒める

帰るには 帰られなくて

涙を堪えて 電話で 聞く声

今にきくと 家でも 建てて

ふたり呼んで 楽を させたい

盆か暮れに 帰れば なぜか

段々小さくなってく父母

やがて時が 二人を 連れ去り

今は田舎に 墓が あるだけ

帰っても 知る人もなく

都会の真似して 変わってく町並み

たったひとつ 昔の ままに

庭に残る 老いた 樅の木

たった二人のお客様

—先生への感謝状—

中田のぞ美・t・



高校で初登校の日。

入学式のあとで、私は一年H組の教室に入り、同級生になった生徒たちと一緒に、決められた席順にしたがって、自分の席に着いた。

教壇に立った担任の先生は、男性だった。

「あ」の付く名前から順番に、自己紹介してもらって、そう言われたので、同級生たちは一人ずつ席を立てて、かんたんな自己紹介を始めた。

やがて私の番になったので、

「中田のぞ美と申します。レッド・ツェッペリンやビートルズを超えるミュージシャンになるのが目標です」と言ったら、

怖いもの知らずだった。

帰り際のことである。

担任の先生から、

「これを受け取ってから選りなさい。これからは毎回、配るから」と言われて、一年H組新聞というのを受け取った。

それを手にとって読んでみたとき、一気に血の気が引く思いがした。

そこには、担任の先生の自己紹介があり、仲の良い社会科の先生が描いたという似顔絵のそばに、このような文章が載っていたのだ。

「ビートルズのジョン・レノンが大好きで、学生時代はミュージシャンを目指すが、挫折。他に出来そうなことはといえば、ビートルズを聴いてきたことで得意になった英語くらい。ならば英語の教師になろうと思いつき、現在に至る。」

翌日からさっそく授業が始まった。

「たぶん、先生は私のことを生意気な奴だと思っているに違いなし。」

なんとなく担任の先生からは嫌われているように思った私は、英語の時間にその先生が教室に来るたびに、極力目立たないようにしていた。授業中に当てられるときを除いて、なるべく喋らないように努めて、距離を置いていた。

やがて二年になり、そのときの担任の先生とは離れることができ、ホッとしたものである。

ミュージシャンになりたいという目標は、中学の頃から私が持っていたものだ。とはいえ、中学時代にやって

FAN LETTER BOX

— MY 詩集の作品への感想募集 —
次の号に発表します

●書き方

掲載ページを参考にして、ご自身のお名前、作品の作者名、月号とページ、作品のジャンルと題名、感想文の順に書いて下さい。
感想を書く作品は、MY 詩集の最近の号（1年以内）から選んで下さい。
詩や作詞についての考え方やご意見なども、ここで発表できます。
感想文の後に続けて書いて下さい。

●用紙と長さ

A4判の400字詰原稿用紙に横書き。
ワープロ印字用紙は、文字サイズ18ポイント以上。
長さ不問。感想の対象となる作品数（作者の数）は自由。
用紙の右上余白に、MY 詩集の同人番号を明記して下さい。

●受付期間

3月1日 - 4月5日（掲載発表：5月発行の5月号）

●送り先

〒332-0015 川口市川口4-3-18 MY 詩集5月号 ファンレターBOX係
メール：登録アカウント@my-shishu.com
題名：5月号ファンレターBOX係

●注意事項

感想へのお礼だけを記した原稿、複数の人宛ての一括りのメッセージは、掲載しません。
感想を下さった方も、今月号や1つ前の号などで作品を発表されていて、自分宛ての感想が届くのを楽しみにしていますので、よろしくお願いします。
作品に感想をもらいたい時は、まず誰かに宛てて感想を出してみましょう。



いたのはボーカルとギターだけの、バンドとは呼べない代物だった。

高校に入学してフォークソング同好会に入ったことで、ようやく、ベースとドラムとキーボードの仲間を得ることが出来たのである。

高校二年のときの文化祭では、そのバンドメンバーで体育館での演奏をすることになった。とはいっても、バスケをして遊んでいる生徒たちの前にそれらしく作られたステージである。

——誰も聞いてくれるひとなんかいないところで演るのか……。

あまりいい気分ではなかったが、MCは同好会会長の私がやることになっていたので、ステージに上がると、私は、マイクスタンドの前で言った。

「たった二曲ですが、一生懸命、練習しました。どうか、楽しんで聴いて下さい」

すると、少ない人数ながらも野太い拍手が聞こえてきた。

体育館の奥のほうに目をやると、平均台を椅子がわりしている二人がいた。一人は、高校一年のときに担任だった、英語の先生。もう一人は、社会科の先生。初登

校の日の（一年H組新聞）に載っていた二人が、観に来てくれたのだ。

私以外のバンドメンバーは、誰一人、二人の先生の授業を受けたことがなかった。

その文化祭の日に、彼ら二人は、私一人のために時間を作って観に来てくれたのである。

演奏は二曲だけだったが、終わったあとにも二人からの野太い拍手があり、私は胸がいっぱいになった。

その日は、ドラムの女の子の男友達が来ていたらしい。「ギターの音、汚いって言ってたよ」

あとでドラムの子からそんなことも言われたが、私は、たいして気にならなかった。

二人の先生が、わざわざ私一人のために来てくれたのだから……。

——あの先生は、私を嫌っていたわけではなく、応援してくれていたのだ……。

初登校の日から一年半も経って、ようやく分かったことだった。

現在の私の人生は、あのときの自己紹介のようなものではないが、高校の文化祭のステージは、今でも忘れられない思い出になっている。

◆おおら和男様

11月号P61

自由詩「五十五年周期」

いいですね、〈一億総詩人〉。それぞれの時代に生きる上で、人は各々生きる環境が違います。心で感じる思いや考え方そのものが詩なんです。次のブームが気になります。

もし、詩のブームが起きれば、人は皆、スマホで詩を表現するんでしょうか？

私も詩人の一人として、もっともっと磨かねばと、今思っています。

◆中窪利周様

11月号P63

自由詩「恋歌」

同感です。不思議ですね。文字なら抵抗なく書けるのに、言葉では何となく恥ずかしいし、言いつらいものです。

でも文字は声以上に真実だと思います。自分の意思を素直に表現できますよね。その文字が声になって聞こえたり、届いたりしたらいいですね。

改めて文字の力の偉大さを感じます。

◆北野麟朋様

11月号P97 自由詩

「無駄のない生き方」

〴〵人生いろいろ、〴〵十人十色、とありますが、当然のことながら人それぞれの人生があります。笑ったり泣いたり、生きることって素晴らしいですよ。

喜怒哀楽の繰り返しで人は学び、成長していきますが、特に最後の一言〈人のために生きること〉の大切さを感じます。

◆小田ともひさ様

11月号P7/P43

テーマ 顔 作詞「君へ」

人の笑顔は、人を幸福にしますね。素直な気持ちが表現されていて、とてもいいと思います。詞としてのリズムも、とてもいいと思います。11月号P52

作詞「葛の花」

時代と共に息づいて、時を超えて寄り添うような花ですね。時代の流れをゆったりとうまく表現していると思います。立体感があるというか、幅があり、奥行きがあり、歴史を感じさせる作品でもあると思います。

◆Sho-T様

11月号P39 テーマ 数え歌

作詞「探偵事務所の数え歌」

探偵という仕事を、たとえ仕事柄といえ、これだけ自信を持って言い切っているところが小気味よい作品ですね。

◆聖川 泉様

11月号P53

作詞「心にあなたを」

心の歌とでもいうのでしょうか？どんな人でも、人それぞれに、心の歌というのを持っていると思います。真っすぐな気持ちが伝わってきます。

◆北野麟朋様

11月号P97 自由詩

「無駄のない生き方」

無駄だと思っても、決して無駄ではなく、生きている事すべてが、たとえどんなに小さな事であっても、決して無駄ではない。本当に私もそう思いますし、それが大切な事だと思います。

◆涼木由真様

11月号P37/P83

テーマ 数え歌

作詞（返詞）

「夢をめざして

—クラブのママの独り言—」

現世乱歩様の作品（11月号P82）もふまえて、返詞を書きました。

これは、実際に私が体験したことです。職場の人たちと二次会などでたまにそういうお店に行く機会がありますが、どうやらお酒に強い私は、酔ってしまったホステスさんにこの上なく薄い水割りを作ってあげて、話を聞いてあげて、帰るときには「ありがとうございます〜す！」と言われ、どちらが客なのか……と考えながら家に帰って来たのでした。

そして、次にお店へ行ったとき、今日こそはホステスさんよりも先に酔ってやろう、と、ハイスピードで飲んでいたのですが、周りの人たちが先に酔ってしまいました。私は酔えないままで、「またかー」と思う、そんな状態が続いてきました。

ホステスさんたちと過ごすひとときは、私に合っていると思います。でも、最後の一行は、私の思いです。

お客は男性ばかりとは限りません。

私のように、女性も行くのです。

涼木さんのこの作詞は、借金を返すとかではなく、夢を叶えるため、というのが安心できた作品でした。

また、新たな作品を楽しみにしています。

◆現世乱歩様

11月号P25 俳句連作

私は幼稚園の時、『エースをねらえ！』のお蝶夫人を気取ってテニスをしていました。

ある日、体育館に飾ってある雛人形のお殿様の首を振り飛ばしてしまい、私一人だったので急いで首を戻しておいたのですが、ずっと後になって「一生、結婚できないかもしれないな」などと思いました。

◆熊谷ゆき様

11月号P22 〈あとればえむ〉

私の言いたいことを代弁して下さい有り難うございます。

〈ほんの小さな感動でもいいと思います。〉というお言葉も、その通りだと思いました。

これからも宜しくお願いします。

◆四谷 文様

11月号P8/P45
テーマ 顔 作詞

「日曜日の午後は街に隠れて」
まさに「こころの日曜日、ですね。
うらやましいです。

◆涼木由真様

11月号P37/P83
テーマ 数え歌
作詞（返詞）

「夢をめざして
—クラブのママの独り言—」
さらりと夢を売って夢を買う、たく
ましい女の子たち。見守るママのまな
ざしもあたたかくて、うっとりしまし
た。
ステキな返詞を有り難うございまし
た。にしています。

◆小田ともひさ様

11月号P7/P43
テーマ 数え歌
作詞「月数え歌」

月ごとの行事が並んで、楽しい歌で
すね。季節の味わいあふれる行事、さ
て、今年はいくつ味わえるかな？ と、
わくわくしました。
11月号P76では、ご感想有り難うご
ざいました。

◆ふじお様

11月号P58
自由詩「四畳半一間」

うーん、「四畳半一間が僕らの宇宙だ
った。そんな青春」という感じで、ま
るで『まんが道』（藤子不二雄）に出
てくるトキワ荘みたいです。

四畳半一間よ

君はもう存在しないだろう

そんな部屋、時折、私の夢にも出て
きますよ。

◆鈴木 一様

11月号P60
自由詩「理想」

ロウソクは、ほんとうに灯と呼びた
い炎ですね。静かに熱く燃え続け、い
つか、ぼちちりと誰かの明かりになる。
うん♡、理想ですね。

◆清水将一様

11月号P60
自由詩「梓川」

河童の伝説のある川。覗き込む、夏
の子どもら。一瞬、きらっと光る初秋
の風。ほんのり色のついた、墨絵を見
ているような気分になりました。

◆滝田一三六様

11月号P65 自由詩

「出来ることが無くなるまで」
私は、朝目覚めたとき「今日やらね
ばならないこと」と「今日やりたいこ
と」が頭に浮かびます。それが幸せな
ことだと、この作品を読んで実感しま
した。有り難うございました。

◆おおら和男様

11月号P61

自由詩「五十五年周期」

また詩のルネッサンスが起きて、い
にしへの文学青年や文学少女が手を取
り合って、「シルバー」ではなく「炎
色の心」になれたらステキでしょうね
……想像してしまいました。

11月号P70 エッセイ

『「おたまじゃくし」の印刷日』

「おたまじゃくし」というミニコミ
誌の内容と、出来上がる過程が臨場感
あふれる文章で書かれており、感動し
ました。

おおら和男様の熱き作品、毎回楽し
みにしております。

◆雪した桜様

11月号P16

テーマ 顔 自由詩「笑顔」
とても微笑ましい温かい様子が目
に浮かびました。きっと愛情いっぱい
に育てられた猫ちゃんなんだろう
な、と。

動物たちって人の心を映すよね、
とどこかで聞いたことがあります。
確かにそうなのかなと思います。愛
情を注いでいる人には優しい顔、警
戒している人には警戒した顔……き
っと何かが伝わるんでしょうね。

素敵な猫ちゃんとの様子に、こち
らもほっこりと笑顔を頂きました。

◆神崎 進様

11月号P17 テーマ 顔

自由詩「ある日の我が家」

これも拝読してとても温かい気
持ちになりました。素敵なお家族で
すね。

こういうやりとり、きつとうちも
娘が大きくなったら、あるの…かな
あ？ と思ったり（苦笑） お父さ
んそっくりでも、それもまたかわい
いんですよね、奥さんも。

半分は自分に似ているはずの顔で
すが、寝顔といたずらするときの顔
は絶対に夫によく似ていると、私も
娘を見ていてついつい、思います…
（苦笑）

◆絵美里☆鳥屋様

11月号P3

テーマ 顔 自由詩「人間の顔」
人間の顔してりゃいいのよ

僕は顔は褒められたものではなく
軽んじられたという逆恨みもしてい
ますが、メの一言に気が軽くなりま
した。別に他人より有利でなくても
いいんですね。

◆現世乱歩様

11月号P33 テーマ 数え歌

作詞「ララバイ」

数えた羊が増える度、心の仮面が
はげていく。

そうして素直になれるなら、眠れ
ぬ夜も悪くない。

嘆いてばかりではありません。

もう大人なのでから。

◆ふじお様

11月号P58

自由詩「四畳半一間」

若い頃に数年住んだ部屋は、そ
の後に数十年住んだ部屋より強く心
に焼き付いているもの。そして、学
生が住める安アパートから取り壊さ
れてゆくかな。

もう心の中にしかない、在りし日
の思い出。それが郷愁を誘うのは、
青春時代が幸せだったのです。それ
は素晴らしいことです。

◆ 絵美里☆鳥皇様

11月号P3

テーマ 顔 自由詩「人間の顔」傑作ですね。思わず吹き出してしまいました。私もやさしい顔でふけてゆきたいと思います。むずかしいですが。

◆ おおら和男様

11月号P12 テーマ 顔

自由詩「似たもの」

私も昔、初めての飲み屋で「あら、久しぶり」と言われたことがあります。100億近い人間がいるんですから、1人や2人同じ顔、似た顔があってもおかしくないですよ。

11月号P61

自由詩「五十五年周期」

すてきなブームが起きればいいですね。

〈詩のブーム〉、あり得ますね。

A1時代になっても、人は芸術の世界で活躍する。そんな時代がきっと来ると思います。

◆ 清水将一様

11月号P14 テーマ 顔

自由詩「八七九千の顔」

見たいのは自分の顔

自分の顔は見えないですよ。鏡に写るのは虚像。本当の自分の顔を見たい。そして〈自分の顔〉で生きていきたい。そう思うのです。

11月号P60

自由詩「梓川」

梓川に行ったことはありませんが、

なんとなく様子が見えてきます。素敵な川なんでしょうね。

11月号P68

自由詩「試練の時間」

透析の大変さを初めて知りました。どうかお大事になさって下さい。

◆ 雪した桜様

11月号P16

テーマ 顔 自由詩「笑顔」

ねこって可愛いですね。憎めません。そんなねこの習性描写が素敵でほほえましい詩ですね。

◆ 神崎 進様

11月号P17 テーマ 顔

自由詩「ある日の我が家」

ある日の〈我が家〉の一コマが生き活きと伝わってきます。心があたたまりました。素敵なご家庭でうらやましいです。

◆ 現世乱歩様

11月号P18

テーマ 顔 連作自由詩

「コレハ……誰 デスカ……」

彫刻刀のような風吹く日

この中で 座り込んで泣いたら

心 洗いざらしの木綿に

戻るだろうか

ふと思う

すばらしい表現ですね。心がさっぱりするでしょうね。泣けなくなった自分に気づきました。

風刺、発想がすばらしく、楽しく読ませていただきました。

11月号P47 作詞

「ホラホラホラー オカルトだ」ノリノリの小気味よいリズム。久しぶりのホラー作品、楽しく観賞させていただきました。

◆ ふじお様

11月号P58

自由詩「四畳半一間」

四畳半一間よ

私の青春時代の

思い出がいっぱい詰まった

狭いながらも楽しい我が家

私も四畳半のアパートにいたことがあり、当時のあれこれを思い出してしまいました。なつかしいですね。当時の社会も、良かったように思います。

◆ 鈴木 一様

11月号P60

自由詩「理想」

自らの炎を燃やし続け

皆の下にも明るい光りを

灯し続ける

そんなロウソクのような

者と成りたい

素敵な詩ですね。わたしもそんな人間になりたいと思うのですが、毎日の現実の生活の中では、すっかり忘れてしまっています。

◆ はこべ様

11月号P61

自由詩「ミニトマト」

植物を育てるって、いいですね。

私にも5年前に挿し木した桜が2本あり、2年目で咲いてくれたのですが、それ以降は全然咲いてくれません。

それでも、家にいるときは1日に何度も見に行きます。全然変化していないのに……。

◆ 吉沢弘子様

11月号P62 自由詩

「グリーンのワイングラス」

愛することの喜び。ひとときのささやかな時間の中にある、永遠の愛、強い愛を感じました。

◆ ちくち うしめ様

11月号P65 自由詩

「優しさの欠片さえ失くして」

〈強いものが生き残る〉……弱肉強食で理性のない社会ですね。

〈駆け引きを繰り返し 分け合うことはしない〉〈私達はあと何年生きられる〉……切実な叫びが伝わってきます。

〈強いもの〉以外の多くのものが立ち上がり、団結し合い、社会のために何かをしなければ、と思います。ちくち様のように、まずはそのことを言葉にしていくことが、大切なのだと思います。

◆ 片野ちえみ様 11月号P85 自由詩（返詩）「わたしはわたし」

わたしはわたし

ほかの誰でもない

同感です。

わたしはわたしの道を行く

多くの先人の考え方も参考にしながら、自分で選んだ道を行く、それでいいのだと思います。

RE: FAVORITE WORKS



返歌・返詩 作品募集

お気に召した作品に対して、応答する内容で書かれた作品を募集します。元の作品は、マイ詩集の最近の号（おおむね1年以内）から選んで下さい。

用紙1枚目余白に、元の作品の月号、ページ、タイトル、作者名を明記。

短歌・俳句……1首/1句でも連作でも可

作詞……20字×30行以内

自由詩……20字×25行以内

連作自由詩、長編自由詩（詩物語）、エッセイ、短篇小説は、P18の募集ルールの長さでお願いします。

元の作品とちがうジャンル（作品形式）で書かれた作品でもOKです。同ジャンル

作詞⇒作詞、自由詩⇒自由詩、短歌・俳句⇒短歌・俳句

別ジャンル

自由詩⇔作詞、作詞⇔短歌、短歌⇔自由詩

その他、エッセイなどの長文作品も対象になります。

複数の作品にたいして1作品を返す作品は不可。

ただし、返歌・返詩のリレーになるような作品は歓迎します。

● 受付期間 3月1日 - 4月5日（掲載発表は5月発行の5月号）

● 送り先 〒332-0015 川口市川口4-3-18

マイ詩集5月号 返歌／返詩係

無駄のない生き方

北野麟朋

笑うことは生きること

それは素晴らし

泣くことは生きること

それは素晴らし

歩くことは生きること

それは素晴らし

立ち止まることは生きること

それは素晴らし

人それぞれ生きること

それは素晴らし

人のために生きること

それは素晴らし



歩き続けたい

小田ともひな

自動車運転やめました

歩けるうちは歩こうと

自転車に乗れるうちは乗り続け

そつしてもうすべ二年です

運転免許証はあるけれど

自動車運転やめました

歩ける事がうれしのです

同じ所を歩いて

毎回新しい発見があるのです

季節の変化が楽しみです

ときには自転車で少し遠くまで行き

途中に自転車おいて歩きます

ときには変った所もいいものです

町の名所旧跡歩くのも いいものです

小さな社や遺跡を見つけるのも楽しみです

歩けるうちは歩きたい 自分のこの足で

できたら死ぬまで歩き続けたい

Smile Again

珠夢湖

思い通りには ならないね
人生山あり 谷ありね
風が強すぎて 立ち止まり
冷たい空気が 身にしみる

走り続けたら 得たものと
失ったものが 交差する

心の底から 思いきり
笑える日が来る あなたにも
今までの努力 無駄じゃない
自分を信じて 抱きしめて

何を見ていても 無表情
曇りがちだね 目の奥は
慌ただし過ぎた 疲労感
回復させよう 少しずつ

時間もかかると 思うけど
自分のことだけ 責めないで

私があなたの そばにいる
いつものあなたに 戻るまで
近づき過ぎずに 遠すぎず
待ち続けるから この場所で

(11月号P52)

冬は鍋物

涼木由真

ハクサイ ダイコン
シュンギク キャベツ
ネギ コマツナ
ホウレンソウ

しゃけの切り身で 石狩鍋
鶏のお団子 つくね鍋

冬は鍋物 栄養たっぷり
体はポカポカ 心に花が咲く
みんなで一緒に いただきますよう

ニンジン サトイモ
シイタケ シメジ
ユズ おとうふ
糸コンニャク

寄せ鍋 カキ鍋 キムチ鍋
モツ鍋 ミソ鍋 ちゃんこ鍋

冬は鍋物 ビタミンいっぱい
体にやさしく 心に花が咲く
みんなで一緒に いただきますよう

あれれれれ？ お椀が 一つ足りない
いつのまに 人が ふえたのかしら
もしかして 誰かが 座敷童子……

ホラホラホラー オカルトだ

現世乱歩

※ ホラホラホラー オカルトだ
お化けは密会 一年中さ
酒だ 踊りだ オカルトだ

春は花見で ドンチャンしよか
桜の下に 埋まって 眠ってた
ゾンビも 出てきちゃったよ 一杯いかが

※ くり返し

夏は海辺で バーベキューだよ
野菜もお食べよ しっかり 焼けてるよ
でもオレ オオカミ男 お肉が専門

※ くり返し

秋はわいわい きのご鍋だね
鬼もつぶれた この酒 鬼殺し
早食い 得意技だね ふた口女

※ くり返し

冬は おそばで 一年語ろう
七転び 八起きで 土ころび
酸いも 甘いもなめてる 君はアカなめ

※ くり返し

(11月号P47)



人生は谷あり谷あり

でも負けない

片野ちえみ

落ちてこそわかる人の優しさ

ブルーのハンドバッグ

吉沢弘子

秋のそよ風に
そっとゆれる 木々の葉……
きょうの私のワンピースは
ブルーの地にピンクの小花を散らした
ひざ下19センチ
そして
ブルーのハンドバッグをたずさえて……

もうすぐ待ち合わせの時刻
バスに乗って
いま着いたばかりの私です……
あのレストランに行きましょつね
あなたに
話したいことが
いっぱいあるのよ……

(11月号p.64)



話しかける

小田ともひさ

風に話しかける
雨に話しかける
雪に話しかける
雲に話しかける
空に話しかける
月に話しかける
星に話しかける

花に話しかける
草に話しかける
木に話しかける
蝶に話しかける
トンボに話しかける
あなたに話しかける
自分に話しかける

みんな友達
みんな仲間

理想

鈴木 一

マッチに灯った程の小さな炎
でも未だ灯は消えてはいない

出来得ることなら
敢えて理想を掲げて云つたら

私は一本のろうソクの様な人と成りたい

自らの炎を燃やし続け

皆の下にも明るい光りを灯し続ける
そんなろうソクの様な者と成りたい

(11月号p.60)



灯をともし

誰かの足元照らすとき

私の足元も明るく見える



片野ちえみ

ホステスさんのホステス

中田のぞ美・t・

玉虫色に光る 夜の街が好き
訪れたクラブ 私の隣に グラマラスな女の子
先に酔って しまった彼女 愚痴が出てくる
「もう一杯」 グラスをテーブルに 叩きつける彼女

2滴の バーボン 水の水割り 作って
背中 さすって 「大丈夫よ」
励まし 飲ませて 高い金 出し
どっちが 客だか 分からないじゃないの

※ もしかして モテてる？ 私
ホステスさんの ホステスに
また なっている ア～ア

会社の二次会 訪れたキャバクラ
私の隣 ホステスさん挟んで 男性社員
彼女の胸を さっきからずっと さわっている
お仕事だから 嫌ですなんて 言えない彼女

「何を してるの！」 男の手を 叩きつけた
お店は 静まり返り 気づいたら
彼は 隅っこで一人 お酒を 飲んでる
私の周り 7、8人 ホステスさんが囲んでる

※ くりかえし

ピンク パープル レッド ゴールド
それぞれの 衣装 身にまとい 「お仕事よ」
みんな プライド 持って 働いてる
頼むから 私を お客様扱いして！ お願い



夢をめざして

—クラブのママの独り言—

涼木由真

一人目 ひろこの夢は 海外留学
二人目 ふみこの夢は ワインのソムリエ
三人目 さちこの夢は フラワーアーティスト
四人目 よしこの夢は 舞台の女優

お店では マリリン ジュリア リサ ユカリ
まだ若い 貴女たち 笑顔で勝負よ
お酒の おかわりさせて 稼ぎましょうね

貴女たちは すてきな夢を 叶えるために
男たちに 夢を 夢を売るのよ

セリフ「いらっしゃいませえ」

一人目 ひろこのお客 営業課長
二人目 ふみこのお客 写真家の弟子
三人目 さちこのお客 大学講師
四人目 よしこのお客 デイトレーダー

お店では マリリン ジュリア リサ ユカリ
初めての ドンペリに 気後れしないで
お酒は 飲ませるものよ 飲まれないでね

貴女たち だいじな夢を 叶えるために
男たちに 夢を 夢を売るのよ

セリフ「いらっしゃいませえ」

(11月号P37/P83)

キャバレー

現世乱歩

おしぼり 灰皿 レースペーパーにナッツ
赤い灯 青い灯 ネオンが灯れば
今夜も始まる 四角い箱の極楽が

外ではおエライさんの男たち
ここでは愚痴をこぼしてゆくよ
安っぽい女の
安っぽさに気をゆるして

嘘と知りつつだまされたふり
アドリブで酒を注ぐのが上手い女たち

転がるように流れて止まらない浮き草
自分を質屋に入れ食いつなぐ狐
演技力1パーセント そこが味な役者
そんなの昼の世界にだっているさ

グラス 安酒 スパンコールのドレス
赤い灯 青い灯 ネオンが灯れば
今夜も始まる 時計仕掛けの極楽が

外ではおエライさんの男たち
ここではだけは甘えん坊
光るドレスの胸に
束の間のおふくろの夢を見る

流行り歌が子守歌
ぬくもりの計り売りが上手い女たち

熟した葡萄をいい風にさらし
醸し出される貴腐のワイン
貴く腐るなんてしゃれた言い方だね
ここには本物の貴婦人がいるよ

呼び込み 蝶タイ ニキビ顔のバンドマン
赤い灯 青い灯 ネオンが灯れば
今夜も始まる めくらましの極楽が

「いらっしゃいませえ」

(8月号P66)

新書館フォア・レディース・シリーズ

涼木由真+冬木リタ

なくしてしまった 詩集
 なんだか空しい 本棚

大人になっても いとしい
 少女の頃の 思い出

忘れてしまった ときめき
 取り戻したい 純情

そんなあなたは おまじない
 小さな声で どうぞ

ロケス ピラトス
 ゾトアス トリタス
 クリサタニトス
 5人の妖精の 名前を呼んで

ロケス ピラトス
 ゾトアス トリタス
 クリサタニトス
 5人の妖精が 見つけてくれる



寺山修司の詩と文に、宇野亜喜良の装幀・装画。高校の図書館で出会ったフォア・レディース・シリーズが、わたしを詩の好きな女の子にしてくれたのだと思う。たて17センチよこ16センチという、ほぼ四角形の判型。表紙をめくると、ストライプ模様の見返しのデザインが、ラッピングペーパーのようだった。そして、イラストの合間に小さな文字が並んでいる目次のページ……。読み始める前から乙女心をくすぐってくれる、とにかくおしゃれな本だった。余白を活かしたレイアウトにも、書かれている詩や文にも、上品な遊び心がちりばめられていた。

新書館という出版社から出されていたこのシリーズは、1965年から1981年までの16年間続いている。大半は詩集だが、エッセイや小説などの文章も含まれていた。全部で131冊。わたしが持っているのはそのなかの30冊ぐらいで、いまでも時おり手に取っている。読み返す頻度が高いのは、最初期の〈寺山修司 抒情シリーズ〉と伊東杏里の〈あんりとぼうろの喫茶店シリーズ〉、後半期の〈寺山修司・萩尾望都編 あなたのファンタジー・シリーズ〉。

きょうは、古書店から入手した販売品のカタログや手持ちのフォア・レディース本の広告ページなどを参考にして作った、自家製の目録を整理しながら、わたしの詩心の原点につながる詩集たちに思いを馳せてみたい。目録の冒頭の数字は、フォア・レディース・シリーズの通巻ナンバーとして本の表紙や扉に記されているものである。

1■ ひとりぼっちのあなたに	寺山修司 抒情シリーズ1	装幀挿画/宇野亜喜良	1965.5
7■ さよならの城	寺山修司 抒情シリーズ2	装幀挿画/宇野亜喜良	1966.10
11■ はだしの恋唄	寺山修司 抒情シリーズ3	装幀挿画/宇野亜喜良	1967.7
16■ 愛さないの愛せないの	寺山修司 抒情シリーズ4	装幀挿画/宇野亜喜良 写真/沢渡朔	1968.5
26■ 時には母のない子のように	寺山修司 抒情シリーズ5	装幀挿画/宇野亜喜良	1969.7
31■ ふしあわせという名の猫	寺山修司 抒情シリーズ6	装幀挿画/宇野亜喜良	1970.3
		新装版 写真/斎藤亢	1972.9
38■ 思いださないで	寺山修司 抒情シリーズ7	装幀挿画/宇野亜喜良 挿画/薄奈々美	1971.4
70■ 人形たちの夜	寺山修司 抒情シリーズ8	装幀挿画/宇野亜喜良 写真/沢渡朔	1975.4
■ひとりぼっちのあなたに・さよならの城・はだしの恋唄(思い出復刻版)	寺山修司	装幀挿画/宇野亜喜良	2004.5

五十五年周期

今から 百五十年前 徳川幕府が
 大政奉還して 江戸時代が終った
 明治となって 明治維新
 世の中が 国が まさしく ひっくり返ったような
 波乱の時代が 始まった
 五十五年後 大正 大正デモクラシー
 民衆 大衆の文化 意識が
 大きく 実を結び 大衆文化が 発達する
 さらに 大戦を挟んで
 五十五年 詩のブームがあった
 一億 総詩人のような 雰囲気さえも あった
 そして 四十年
 明治 大正 昭和と 平成を越えて 令和
 間もなく ブームがやってくる
 果たして それは どんなブームなのか
 又、詩のブームが 起きそうな
 そんな 予感がする……

11月号P6(

おおら 和男



寺山修司：1935年（昭和10年）12月10日 - 1983年（昭和58年）5月4日
 新書館フォア・レディース・シリーズの刊行が始まった1965年は、30歳。その時点で、歌人、詩人、シナリオ作家のキャリアが10年ぐらい。寺山修司が少女向けの詩歌を手がけるようになったきっかけは定かではない。感傷的なロマンティズムの奥に微かな痛みが潜んでいる寺山修司の詩と文に、洗練されたアンニュイを漂わせる宇野亜喜良のイラストというコラボレーションは、時代の波にうまく乗っていたのかもしれない。60年代の月刊誌『女学生の友』をひもとくと、巻頭カラーでリルケやゲーテの詩が抒情画や風景写真といっしょに載っていたりする。
 初期のフォア・レディース・シリーズは、国内の女性の詩人たちを起用する一方で、さまざまな文学的ジャンルへの入門書ともいえるような、レディーとしての教養を意図した感じのラインナップだ。

2■ ベストドレッサーの秘密	細野 久	装幀／宇野亜喜良 挿画／川村みづえ	1965
3■ フランスの女流作家たち	松尾邦之助	表紙画挿画／松本はるみ	1965.9
4■ 愛のギリシア神話	高橋睦郎	装幀挿画／宇野亜喜良 写真／沢渡朔	1965
90■ 愛の女神たち 愛のギリシア神話2	高橋睦郎	装幀／佐藤憲吉 挿画／小泉孝司	1977.3
5■ 恋する魔女	立原えりか	純愛小説シリーズ 1 装幀挿画／宇野亜喜良	1966.4
15■ 風の中のめんどり	立原えりか	純愛小説シリーズ 2 装幀／宇野亜喜良 挿画／沢田重隆	1968.3
		新装版 風のかたみ 装幀／宇野亜喜良 写真／斎藤亢	1973.2
20■ 宝石泥棒	立原えりか	純愛小説シリーズ 3 装幀／宇野亜喜良 挿画／松本はるみ	1968.12
29■ 砂糖菓子のかげら	立原えりか	純愛小説シリーズ 4 装幀／宇野亜喜良 挿画／松本はるみ	1969
6■ 女流詩人 詩を愛するあなたのために	諏訪 優	表紙画挿画／横尾忠則	1966
8■ かわいい魔女	新川和江、白石かずこ、立原えりか他	装幀／宇野亜喜良 挿画／水森亜土	1966.11
9■ 婚約	小佐井伸二	装幀／宇野亜喜良 挿画／前田亜土	1966.11
10■ 世界でいちばん残酷な話 薔薇の天使	竹内健 怪奇幻想シリーズ 1	装幀／宇野亜喜良 挿画／蓮本みゆき	1967.4
21■ 世界でいちばんコワイ話 薔薇の悪魔	竹内健 怪奇幻想シリーズ 2	装幀挿画／宇野亜喜良	1968
28■ 世界でいちばん奇妙な話 薔薇の半身	竹内健 怪奇幻想シリーズ 3	装幀挿画／宇野亜喜良	1969
33■ 世界でいちばん孤独な話 薔薇の埋葬	竹内健 怪奇幻想シリーズ 4	装幀／宇野亜喜良 挿画／藤本蒼	1970.5
12■ 最後の夏	リカルダ・フーフ	訳／矢川澄子 装幀／宇野亜喜良 挿画／松本はるみ	1967.9
13■ ある日、トツゼン恋が	白石かずこ	装幀／宇野亜喜良 挿画／横尾忠則	1967.8
19■ 恋に日曜日はないの	白石かずこ	カラージュ／前田亜土 写真／沢渡朔	1968
24■ 恋人たちよ こんにちは	白石かずこ	装幀／宇野亜喜良 挿画／池田満寿夫	1969.6
34■ 1セントの花びら	白石かずこ	装幀挿画／宇野亜喜良	1970
14■ ビリチスの愛の歌 恋の島レスボス	栗田勇	ロマネスクシリーズ 1 装幀挿画／宇野亜喜良	1967.12
18■ ビリチスの官能の歌 快樂の島キブル	栗田勇	ロマネスクシリーズ 2 装幀挿画／宇野亜喜良	1968
23■ 愛奴物語 白夜を旅する妖精	栗田勇	ロマネスクシリーズ 3 装幀挿画／宇野亜喜良	1969
25■ 神秘の国の愛奴	栗田勇	ロマネスクシリーズ 4 装幀挿画／宇野亜喜良	1969
94■ ビリティス ピエール・ルイス	訳／伊東杏里	挿画／宇野亜喜良 写真／デビッド・ハミルトン	1977.9
17■ わたしの愛は……	新川和江	純愛詩集 1 装幀／宇野亜喜良 挿画／渡辺藤一	1968
27■ ひとりて街をゆくときも	新川和江	純愛詩集 2 装幀／宇野亜喜良 写真／沢渡朔 モデル／立川ユリ	1969
22■ エメラルドの伝説	なかにし礼	装幀／宇野亜喜良 挿画／カラージュ／前田亜土	1969.3

フォア・レディース・シリーズに、読者の投稿作品で作られる〈あなたの詩集〉が登場するのは、1969年12月。8冊ある〈寺山修司 抒情シリーズ〉の5冊目『時には母のない子のように』が刊行された年である。シリーズ1冊目『99粒のなみだ』の再版（1975.3 第10刷）に挿まれている新書館新刊案内パンフレットには、あなたの詩集No.11の作品を募集します、という見出しで、応募要項が載っている。メ切は1975年5月末。No.11『鉛筆のシンデレラ』初版発行は1976年9月。おおむね1年に1回のペースで刊行されていたようだ。

シリーズ5冊目『舞踏会の手帖』（1972.9 初版 1975.1 第3刷）までは、とりわけ、寺山修司の抒情詩の世界と通じているような作品が多い。6冊目以降も、多かれ少なかれその傾向は続いている。投稿者の少女や若い女性は、世代が入れ替わっても〈寺山修司 抒情シリーズ〉を愛読しながら詩や物語を書く趣味を培っていたのだろう。〈あなたの詩集〉は、フォア・レディースのなかでは最長の、10年間続いた15冊のシリーズになっている。

30■ 99粒のなみだ	寺山修司編	あなたの詩集 1 (伊東杏里 あんりとぼうろ 1) 装幀挿画／宇野亜喜良	1969.12
37■ 半分愛して	寺山修司編	あなたの詩集 2 装幀／宇野亜喜良 挿画／藤田寧子	1970
44■ 星みがき	寺山修司編	あなたの詩集 3 装幀挿画／宇野亜喜良	1971
52■ 舞踏会の手帖	寺山修司編	あなたの詩集 4 装幀挿画／宇野亜喜良	1972.9
54■ 眠るのがこわい	寺山修司編	あなたの詩集 5 装幀／宇野亜喜良	1972.10
59■ 恋なき子	寺山修司編	あなたの詩集 6 装幀／宇野亜喜良 写真／斎藤亢	1973
63■ 恋するアリス	寺山修司編	あなたの詩集 7 装幀／宇野亜喜良 写真／沢渡朔	1974
69■ 水曜日の天使	寺山修司編	あなたの詩集 8 装幀／宇野亜喜良 写真／斎藤亢	1975
74■ 水の子オルフェ	寺山修司編	あなたの詩集 9 装幀／宇野亜喜良 写真／松村誠	1975.9
		新装版 表紙画／薄奈々美	1975
79■ 鏡の国のあなた	寺山修司編	あなたの詩集 10 装幀／宇野亜喜良 挿画／佐藤憲吉	1976.4
83■ 鉛筆のシンデレラ	寺山修司編	あなたの詩集 11 装幀／宇野亜喜良 挿画／佐藤憲吉	1976.9
91■ 赤い鳥逃げた	寺山修司編	あなたの詩集 12 装幀／宇野亜喜良 挿画／佐藤憲吉	1977.6
107■ ジュリエットの数学	寺山修司編	あなたの詩集 13 装幀／宇野亜喜良 写真／松村誠	1978.5
117■ 墜ちた天使	寺山修司編	あなたの詩集 14 -15 装幀／宇野亜喜良 表紙画／内田善美	1979.1
127■ 愛する時は歌う時	寺山修司編	あなたの詩集 16 装幀／宇野亜喜良 表紙画／羽仲林	1980.6

〈あなたの詩集シリーズ〉の1冊目は『99粒のなみだ』。200ページ近くあるこの本の3分の1は伊東杏里の詩と文で埋められていて、49ページから129ページまでのその部分だけ、うす紫の紙が使われている。〈あなたの詩集〉としてのタイトルも、そこに収録されている伊東杏里が投稿した連作詩篇『99粒のなみだ』から採られている。古書店によってはこの1冊を、作家伊東杏里の処女作品集という位置づけを物語も載せている。それゆえだろう。伊東杏里はこの本のなかで、あんりとぼうろという、ふたりの少女が主人公の物語も載せている。ふたりはジャズのレコードをかける喫茶店〈地獄の天使〉のオーナー。店の場所は都内のビルの地階。焦がしたような木の扉を開けて階段を降りていくと、じゅうたんを敷きつめた空間のまんなかには寝台が置かれていて、ガラスの黒いテーブルのまわりにクッション、店内の一隅には白く塗られた鉄製の室内用ブランコ。一読しただけで、この物語の世界観に惹かれてしまった。

カバーの内側に載っている寺山修司の紹介文から引用する。
 あんりとぼうろのほとどの年がいくつでどんな顔をしているのかは、ぼくにもわかりません。でも実在していることだけはたしかなようです。この世にいないにんげんは詩を書くことなどでできないからです。わたしがこの1冊に出会ったのは1970年代の半ばぐらいだったが、この紹介文の所為もあって、〈地獄の天使〉という喫茶店がほんとうに都内のどこかに実在するような気がしてならなかった。

シリーズの2冊目（伊東杏里オンリー本としては1冊目）『あんりとぼうろ=ふたりの船』には、オリジナル版と新装版の2種類があり、装幀のちがいを楽しめる。オリジナル版1970年の表紙画と挿画は、宇野亜喜良。本文中にシュールなカラーイラストが3枚、いずれも寒色系の耽美的なイメージで統一されている。新装版1976年の表紙画と挿画は、佐藤憲吉。巻頭にカラーで4ページ、こちらは暖色系で、ヴィクトリアン時代のレトロで可愛らしいイラストと写真のカラージュ。どちらも個性的な魅力を放っていて、その時代ならではの空気を感じさせるアートワークだ。

36■ あんりとぼうろ=ふたりの船	伊東杏里	あんりとぼうろ 2 装幀挿画／宇野亜喜良	1970.12
		新装版 あんりとぼうろ ふたりの船の巻 装幀挿画／佐藤憲吉	1976.7
47■ 彼女と彼 Elle et Lui	伊東杏里	あんりとぼうろ 3 装幀挿画／宇野亜喜良	1972.6
121■ 合言葉は「地獄の天使」で逢おう	伊東杏里	あんりとぼうろ 4 装幀挿画／宇野亜喜良	1979.6
		あんりとぼうろシリーズ単行本未収録分：新書館 ペーパームーン 創刊号（1976.3）～10号（1978.1）	
32■ 舌出し天使	夏木洋子	装幀挿画／宇野亜喜良 写真／斎藤亢	1970
42■ あなたが好き	夏木洋子	写真構成／宇野亜喜良 写真／斎藤亢 ドレス／コシノ・ジュンコ	1971.10
57■ 恋人と呼ばれたい	夏木洋子	写真構成／宇野亜喜良	1973
35■ 空にいちばん近い悲しみ	安井かずみ	挿画／宇野亜喜良	1970.8
43■ 空にかいたしあわせ	安井かずみ	装幀挿画／宇野亜喜良 写真／斎藤亢	1971
39■ おしゃべりな屋根裏部屋	落合恵子	写真構成／宇野亜喜良 写真／斎藤亢 モデル／秋川リサ	1971.5
40■ ビートルズ詩集 愛こそすべて	訳／羽切美代子	装幀／宇野亜喜良 挿画／藤本蒼	1971.6
45■ ビートルズ詩集 世界の果てまでも	訳／羽切美代子	装幀／宇野亜喜良 写真／斎藤亢	1972.3

41■ ほんとうに愛していたら	草壁焰太 装幀／宇野亜喜良 写真構成／原田維夫	1972
51■ 恋人の子守歌	草壁焰太 装幀／宇野亜喜良	1972
46■ MISS WHITE 白い人	金川富子 装幀／宇野亜喜良	1972.5
48■ 子どもの日のように	水垣洋子 装幀表紙画／松任谷国子	1972

70年代前半は、フォア・レディース・シリーズの最盛期だったのかもしれない。詩人や作詞家のほかにシンガーソングライターが加わって、作家の幅が広がってきたこの時期は、詩集を中心としながらも、バラエティに富んだエンターテインメント志向が垣間見えている。表紙のイラストや写真が、高度成長期を反映したような明るく親しみやすいイメージにシフトしたものの、宇野亜喜良の装幀、ブックデザインも継続中。

この時期は、1965年5月からスタートした〈寺山修司 抒情シリーズ〉がロングセラーになっていることにも着目したい。『ひとりぼっちのあなたに』は73年8月の時点で80刷、『さよならの城』は73年5月の時点で62刷。

49■ 優しい約束	酒井チエ 写真／斉藤亢	1972
60■ 美しい時間	酒井チエ 写真構成／原田維夫	1973
73■ ひとりぼっちで頼杖ついて	酒井チエ 表紙画挿画／林静一	1975.7
53■ 愛するメロディ	田中未知・寺山修司	1972
55■ 愛しはじめて	宇都宮里志 装幀／宇野亜喜良 写真／斉藤亢	1973
68■ 初恋の頃だった	宇都宮里志	1975
56■ MIO と11ぴきのネコ	羽仁みお 写真／ケン影岡 写真構成／原田維夫	1973.3
58■ おしゃれな関係	万里村ゆき子 写真構成／宇野亜喜良 写真／斎藤亢	1973
64■ 青春の落書き	小椋 佳 装幀表紙画／林静一	1974 新装版：写真表紙
77■ 思いこみ	小椋 佳 表紙画挿画／林静一	1976
102■ 詩草	小椋 佳 装幀／宇野亜喜良 挿画／野原幸夫・森永玲子	1977.12
65■ 愛の民話	辺見じゅん 表紙画挿画／宮田雅之	1974
66■ 最終列車も見送って 旅するあなたへ	喜多條忠 写真／田村仁	1974
67■ さよなら パパ	岸田理生 表紙画／宇野亜喜良	1974.12
86■ ロング・グッドバイ	岸田理生 装幀／宇野亜喜良 挿画／味戸ケイコ	1976.12
71■ とべない鷗	黒田征太郎 旅絵日記	1975
72■ ジブシーの心が好き	星 もん 写真／斎藤亢 モデル／ケレン吉川	1975
75■ 愛のいたみを	入江美樹 装幀／宇野亜喜良 表紙画挿画／松任谷国子	1975.11
76■ 孤独がぼくの友だち〈アラン・ドロン〉	ユミ・ゴヴァース 表紙画／佐藤憲吉	1975
78■ たったひとつの季節に	塚原 将 表紙画挿画／佐藤憲吉	1976.3
93■ 消せない時間	塚原 将	1977.7
120■ 閉ざされた愛	塚原 将 表紙画／林静一	1979.3

1970年代の後半になると、マザーグースや不思議の国のアリスといった、英国童話風味がフォア・レディース・シリーズのメインストリームになってくる。イラストにも童話や童謡の誕生した19世紀の画家たちの作品を使用。

少女漫画の世界で文学的なセンスを開花させた萩尾望都も、その頃の代表作『ポーの一族』にマザーグースを時おり引用していて、日本国内でマザーグース・ブームが広まっている時代だった。

80■ マザーグースの絵本Ⅰ だんだん馬鹿になってゆく	訳／岸田理生 表紙画挿画／ケイト・グリーナウェイ	1976.6
82■ マザーグースの絵本Ⅱ アップルパイは食べないで	訳／岸田理生 表紙画挿画／ケイト・グリーナウェイ	1976.7
84■ マザーグースの絵本Ⅲ なぞなぞなあに？みつけた	訳／岸田理生 表紙画挿画／ケイト・グリーナウェイ	1976.9
104■ マザーグースのクッキング・ブック	入江麻木・岸田理生 表紙画挿画／ケイト・グリーナウェイ	1978
99■ マザー・グース 1	訳／寺山修司 表紙画挿画／アーサー・ラッカム	1977
103■ マザー・グース 2	訳／寺山修司 表紙画挿画／アーサー・ラッカム	1978
113■ マザー・グース 3	訳／寺山修司 表紙画挿画／アーサー・ラッカム	1978
81■ ベルギー・愛の滞在	松任谷国子 装幀／宇野亜喜良	1976.7

85■ ストロベリーフィールズ	萩尾望都 装幀／佐藤憲吉 対談／伊東杏里	1976.11
131■ 月夜のバイオリン (For Ladies 最終ナンバー)	萩尾望都 装幀／奥秋美江子	1981.12
87■ わたしの詩集 グリーン版 (白い本)	装幀／佐藤憲吉 表紙画挿画／ケイト・グリーナウェイ 別バージョン わたしの詩集 ホワイト版	1976.12 1976

89■ 帰去来	さだまさし 装幀／宇野亜喜良 挿画／林静一 写真／森田研作	1976
130■ 続・帰去来	さだまさし 装幀／宇野亜喜良 挿画／原田維夫 写真／森田研作	1981.11
92■ 愛の余韻	ジャニス・イアン 訳／遠野あけみ 装幀／宇野亜喜良	1977
95■ 宝塚歌劇詩集 すみれの花咲く頃	編著／内田みさ 挿画／佐藤憲吉 写真／綾部年次	1977.10
96■ 子供部屋のアリス	ルイス・キャロル 訳／高橋康也・迪 挿画／ジョン・テニエル	1977
112■ アリスのクッキング・ブック	入江麻木・岸田理生 表紙画挿画／ジョン・テニエル	1978.9
126■ アリスの占いブック	伊東杏里 表紙画挿画／ジョン・テニエル	1980.3
97■ いつのまにか雑貨屋さんになっていた	杉本亜鶴	1977
98■ 忘れやはするミス・ニューヨーカー	常盤新平 表紙画挿画／佐藤憲吉	1977.12

年に1回のペースで刊行されていた〈あなたの詩集シリーズ〉とは別に、1977年にはイラストストーリーと短篇漫画の投稿作品を扱う〈あなたのファンタジー・シリーズ〉が登場した。年に3回、4回というハイペースで9冊が刊行されている。萩尾望都からフォア・レディース・シリーズに入ってくる読者が多くなっていたのかもしれない。

選考者としての寺山修司と萩尾望都の対談には、アマチュア作家の陥りやすい畏や、子どもの詩に優れた作品が多い理由など、創作に携わる者が心得ておくべき事柄が多く、収録作品とは別の読みごたえも大きかった。

100■ アニス・ビスケット・タイム	寺山修司・萩尾望都編 あなたのファンタジー 1 装幀／宇野亜喜良	1977.12
101■ デリカシィ・ココア・タイム	寺山修司・萩尾望都編 あなたのファンタジー 2 装幀／宇野亜喜良	1978.1
108■ エンゼル・シャーベット・タイム	寺山修司・萩尾望都編 あなたのファンタジー 3 装幀／宇野亜喜良	1978.8
109■ パンキン・シフォンパイ・タイム	寺山修司・萩尾望都編 あなたのファンタジー 4 装幀／宇野亜喜良	1978.8
118■ カトルカール・タイム	寺山修司・萩尾望都編 あなたのファンタジー 5 装幀／宇野亜喜良	1979.2
119■ リキュール・ボンボン・タイム	寺山修司・萩尾望都編 あなたのファンタジー 6 装幀／宇野亜喜良	1979.3
122■ サングリア・タイム	寺山修司・萩尾望都編 あなたのファンタジー 7 装幀／宇野亜喜良	1979.8
124■ ウィンナコーヒー・タイム	寺山修司・萩尾望都編 あなたのファンタジー 8 装幀／宇野亜喜良	1979.9
128■ マジパン・タイム	寺山修司・萩尾望都編 あなたのファンタジー 9 装幀／宇野亜喜良	1980.6
106■ 猫の詩集	ジャック・ブレベール、寺山修司、シュトルム他 表紙画挿画／山城隆一	1978.4
111■ サガンのすべて	フランソアーズ・サガン 訳／朝吹登水子 挿画／穂積和夫 装幀／奥秋美江子	1978
114■ 静かな幽霊	山田ミネコ	1978
115■ 血のアラベスク 吸血鬼読本	須永朝彦 装幀／宇野亜喜良	1978.12
123■ スタイリストは私の大好きな職業	春原久子	1979
125■ ローズパッド・ロージー	樹村みり	1979
129■ ウェルカム・ラブランド	伊東愛子	1980

■フォア・レディース・シリーズ 刊行タイトル不明 8冊／131冊：No.50, 54, 61, 62, 88, 105, 110, 116

新書館からフォア・レディース・シリーズの雑誌バージョンともいえる季刊誌『ペーパームーン』が創刊されたのは、1976年3月である。詩と童話の世界に流行のライフスタイルや音楽や少女漫画の話題を組み合わせた、文学少女向けの情報誌で、執筆メンバーの9割ぐらいがフォア・レディースの著者やイラストレーターだった。

「ペーパームーン」には寺山修司が編集する連載企画があって、『ひとりぼっちのあなたに』『さよならの城』等のフォア・レディース初期を彩った〈寺山修司 抒情シリーズ〉につながる世界観を味わうことができた。

その連載が、十数年にわたって詩的な世界の楽しみ方と内外の非凡な芸術家たちを紹介し、飛躍的な発展期にあった少女漫画の詩情を評価しながらも文学者としてのスタンスで発信を続けた、寺山式少女文学の最終便と言える。

1978年1月の第10号で雑誌の『ペーパームーン』は終刊。読者の支持が大きかったSFファンタジー漫画の要素だけが、コミック雑誌の『別冊ペーパームーン grape fruit』(1981年7月創刊)へと受け継がれていった。

フォア・レディース・シリーズとして確認できる最後の1冊は、通巻No.131、1981年12月に刊行された萩尾望都の童話集『月夜のバイオリン』。それから1年と5ヶ月後に寺山修司は旅立っている。47歳だった。

マイ詩集 バックナンバー

VOL.402まで1冊送料共700円。VOL.403以降は事前に頒価をお問合せ下さい。

〒332-0015 埼玉県川口市川口4-3-18 マイ詩集 バックナンバー係

editorsroom2@my-shishu.com 「バックナンバー係」

銀行振込: 三井住友銀行高円寺支店 普通1279529

- | | | | |
|---|--|---|---|
| <p>♣ 1998年 特集テーマ</p> <p>1月号 (VOL.300) この想いは木枯しに負けない</p> <p>3月号 (VOL.301) ふたりでお茶を</p> <p>5月号 (VOL.302) 萌え出づる蒼い恋</p> <p>7月号 (VOL.303) 真珠の涙</p> <p>9月号 (VOL.304) 天使と小悪魔</p> <p>11月号 (VOL.305) 月は優しい夜の魔術師</p> | <p>♣ 2004年 特集テーマ</p> <p>1月号 (VOL.336) 月</p> <p>3月号 (VOL.337) 星</p> <p>5月号 (VOL.338) 海</p> <p>7月号 (VOL.339) 夜
作詞入門コミック総集編</p> <p>9月号 (VOL.340) 壁</p> <p>11月号 (VOL.341) 伝説
MY詩集創刊号復刻作品集</p> | <p>♣ 2010年 特集テーマ</p> <p>1月号 (VOL.372) 冬の星座/ビジネス</p> <p>3月号 (VOL.373) 雪の日/PC</p> <p>5月号 (VOL.374) 好きな詩人/愛犬</p> <p>7月号 (VOL.375) 画家に捧げる詩
雨の日のラブソング</p> <p>9月号 (VOL.376) ポーカーフェイス/テレフォン</p> <p>11月号 (VOL.377) ギリシア神話/同窓会</p> | <p>♣ 2014年 特集テーマ</p> <p>1月号 (VOL.396) ショーカー/島</p> <p>3月号 (VOL.397) ラジオ/きょうだい</p> <p>5月号 (VOL.398) 五月/遺産</p> <p>7月号 (VOL.399) 帽子/夢と現実</p> <p>9月号 (VOL.400) わたしのマザーグース
(資料:
アガサ・クリスティ作品に
登場するマザーグース)</p> <p>11月号 (VOL.401) 探偵
化粧/ララバイ</p> |
| <p>♣ 1999年</p> <p>1月号 (VOL.306) 聖夜☆あなたと雪と音楽と</p> <p>3月号 (VOL.307) 優しく歌ってあげる…</p> <p>5月号 (VOL.308) 5月の森色オルゴール
MY詩集作詞コンテスト
入賞作品発表号</p> <p>7月号 (VOL.309) 畏</p> <p>9月号 (VOL.310) 銀河</p> <p>11月号 (VOL.311) 駅</p> | <p>♣ 2005年</p> <p>1月号 (VOL.342) 自由
遠い町 創刊号2号詩画選集</p> <p>3月号 (VOL.343) 猫/家族
遠い町 童話選集</p> <p>5月号 (VOL.344) 桜/メロディ</p> <p>7月号 (VOL.345) 紫陽花/リバイバル</p> <p>9月号 (VOL.346) 雲/プライド</p> <p>11月号 (VOL.347) コスモス/木霊</p> | <p>♣ 2011年</p> <p>1月号 (VOL.378) 聖夜/川</p> <p>3月号 (VOL.379) 城/70年代</p> <p>5月号 (VOL.380) 少女小説/秘密
(資料:
明治初期以降の
少女小説歴史年表)</p> <p>7月号 (VOL.381) わたしのマザーグース
(資料:
少女漫画作品に作品に
登場するマザーグース)</p> <p>9月号 (VOL.382) 人魚姫/ふるさと</p> <p>11月号 (VOL.383) 踊り子/タイムマシン</p> | <p>♣ 2015年 特集テーマ</p> <p>1月号 (VOL.402) 江戸/Xmasファンタジー</p> <p>3月号 (VOL.403) マジック/スパイス</p> <p>5月号 (VOL.404) 花と蝶の季節</p> <p>7月号 (VOL.405) 金/三部作</p> <p>9月号 (VOL.406) 夏休み</p> <p>11月号 (VOL.407) ティータイム/四部作</p> |
| <p>♣ 2000年</p> <p>1月号 (VOL.312) DOLL</p> <p>3月号 (VOL.313) DREAM</p> <p>5月号 (VOL.314) GAME</p> <p>7月号 (VOL.315) RAIN</p> <p>9月号 (VOL.316) 電話</p> <p>11月号 (VOL.317) 薔薇</p> | <p>♣ 2006年</p> <p>1月号 (VOL.348) クリスマスソング/扉</p> <p>3月号 (VOL.349) ショーカー
夜のチョコレート</p> <p>5月号 (VOL.350) 花物語/少年時代</p> <p>7月号 (VOL.351) 瞳/回転木馬</p> <p>9月号 (VOL.352) 影/図書館</p> <p>11月号 (VOL.353) 嵐/果実</p> | <p>♣ 2012年 特集テーマ</p> <p>1月号 (VOL.384) 映画館/クリスマスツリー</p> <p>3月号 (VOL.385) 天使/家族</p> <p>5月号 (VOL.386) 花物語
(資料:
吉屋信子『花物語』
全54篇ストーリー紹介)</p> <p>7月号 (VOL.387) アリス/下町の夏</p> <p>9月号 (VOL.388) クイーン/洋酒</p> <p>11月号 (VOL.389) 赤毛のアン/パスワード</p> | <p>♣ 2016年</p> <p>1月号 (VOL.408) New Year's Holiday
詩物語</p> <p>3月号 (VOL.409) 夢/冬のソネット</p> <p>5月号 (VOL.410) 幼なじみ/春の散文詩</p> <p>7月号 (VOL.411) 夏物語/あの声が聞こえる</p> <p>9月号 (VOL.412) 花火/最後にひとつだけ</p> <p>11月号 (VOL.413) 隠れ家/オノマトベ</p> |
| <p>♣ 2001年</p> <p>1月号 (VOL.318) 卵</p> <p>3月号 (VOL.319) 波</p> <p>5月号 (VOL.320) 翼</p> <p>7月号 (VOL.321) VOICE</p> <p>9月号 (VOL.322) COLOR</p> <p>11月号 (VOL.323) BIRTHDAY</p> | <p>♣ 2007年</p> <p>1月号 (VOL.354) 灯/S F</p> <p>3月号 (VOL.355) ワルツ/屋物語</p> <p>5月号 (VOL.356) 緑野/船出</p> <p>7月号 (VOL.357) 霧/パズル</p> <p>9月号 (VOL.358) 砂/秘密</p> <p>11月号 (VOL.359) 31 (短歌) /夜明け</p> | <p>♣ 2013年</p> <p>1月号 (VOL.390) 鬱/クリスマスプレゼント</p> <p>3月号 (VOL.391) 最後のバレンタイン
レコード</p> <p>5月号 (VOL.392) 砂丘/アルバム</p> <p>7月号 (VOL.393) 月の裏側/スクラップブック</p> <p>9月号 (VOL.394) おせっかい/夏の星座</p> <p>11月号 (VOL.395) 友だち/庭</p> | <p>♣ 2017年</p> <p>1月号 (VOL.414) クリスマスの思い出
サビで始まる歌詞</p> <p>3月号 (VOL.415) 告白の方法/町の歌</p> <p>5月号 (VOL.416) 好きな本/応援歌</p> <p>7月号 (VOL.417) デュエットソング
返歌・返詩</p> <p>9月号 (VOL.418) ララバイ/もうひとりの私</p> <p>11月号 (VOL.419) パースディソング
若かったあの頃</p> |
| <p>♣ 2002年</p> <p>1月号 (VOL.324) CHRISTMAS CARD</p> <p>3月号 (VOL.325) 鍵</p> <p>5月号 (VOL.326) 窓</p> <p>7月号 (VOL.327) 林檎</p> <p>9月号 (VOL.328) 太陽</p> <p>11月号 (VOL.329) 鏡</p> | <p>♣ 2008年</p> <p>1月号 (VOL.360) ナイフ/旧友</p> <p>3月号 (VOL.361) 約束/部屋</p> <p>5月号 (VOL.362) 春の嵐/赤と黒</p> <p>7月号 (VOL.363) 夏への扉/夜景</p> <p>9月号 (VOL.364) 夏祭り/ソネット (14行詩)</p> <p>11月号 (VOL.365) 19世紀/三部作 (連作)</p> | <p>♣ 2018年</p> <p>2月号 (VOL.420) 冬のティータイム
花・雪・風</p> <p>5月号 (VOL.421) 春の夢/Stay with me</p> <p>8月号 (VOL.422) ふるさとの夏/ジェラシー</p> <p>11月号 (VOL.423) 葡萄酒/コンプレックス</p> | <p>♣ 2019年</p> <p>2月号 (VOL.424) 雪の日/親友</p> <p>5月号 (VOL.425) みどりの季節/忘れ物</p> <p>8月号 (VOL.426) 夏の風物詩/都会</p> <p>11月号 (VOL.427) 顔/数え歌</p> |
| <p>♣ 2003年</p> <p>1月号 (VOL.330) 三日月</p> <p>3月号 (VOL.331) 雪</p> <p>5月号 (VOL.332) 記憶</p> <p>7月号 (VOL.333) 空気</p> <p>9月号 (VOL.334) 水</p> <p>11月号 (VOL.335) 名前</p> | <p>♣ 2009年</p> <p>1月号 (VOL.366) シャーロック・ホームズ
(資料: 事件と作品の年表)</p> <p>3月号 (VOL.367) ホワイトクリスマス
灯色の童話/ララバイ</p> <p>5月号 (VOL.368) 四季物語/デュエット</p> <p>7月号 (VOL.369) 妖精国の住民達/母への手紙</p> <p>9月号 (VOL.370) 古書店
9月のパースディソング</p> <p>11月号 (VOL.371) 和菓子/ミステリー</p> | | |

マイ詩集 バックナンバー 個人作品集・短篇小説・エッセイ掲載号

♣短篇/学篇小説・エッセイ掲載号♣

香月 優「MEMORY MEMORY」(2003年 1月号)	はこべ「ユリノキの住民達」(2009年 7月号)
松井麗鳳「桜の樹の下で 花の記憶」(2003年 1月号)	万里(詩物語)「おじいさまの夢の国」(2009年 7月号)
現世乱歩「コスモス駅 風の記憶」(2003年 1月号)	現世乱歩「風」(2009年 7月号)
過負荷「悪夢 人の記憶」(2003年 1月号)	中山めぐみ「リねん」(2009年11月号)
渋谷 晶「古い井戸の中のお姫さまの話 夢の記憶」(2003年 1月号)	はこべ「鉛売り男の旅の空」(2009年11月号)
過負荷「雨男」(2003年 1月号)	芽吹「おじいちゃん」(2010年 1月号)
じんべ よしお「AIR」(2003年 7月号)	芽吹「私はボチ」(2010年 5月号)
現世乱歩「ロングロングラン」(2003年 9月号)	星のカナリア「クリスマス・キャンドル」(2011年 1月号)
じんべ よしお「WATER」(2003年 9月号)	汀 蓉茉(随想)「回転木馬」(2011年 3月号)
遊太郎「乗換駅」(2003年11月号)	(VOL351=2006年7月号の再録)
過負荷「風の民」(2003年11月号)	七瀬すみか「Precious Time」(1999年10月 EXTRA2号の再録)
じんべ よしお「NAME」(2003年11月号)	現世乱歩「月夜の海の物語」(2011年 9月号)
過負荷「星を継ぐ者」(2004年 3月号)	夏木祐二「リージェント・パークからの依頼人」(2012年 3月号)
過負荷「天国にいちばん近い島」(2004年 5月号)	冬木りた「水曜日の花物語」(2012年 5月号)
じんべ よしお「顔色マシ」(2004年 5月号)	多岐百合子「七月の紫陽花」(2012年 7月号)
ちょこ伊バスタ「ごましおの心」(1999年4月 EXTRA1号の再録)	夏木祐二(詩物語)「五月生まれの彼女」(2012年 7月号)
渋谷 晶「お花になった小さな男の子とおかあさんの話」(2004年11月号)	添田明里(エッセイ)「フレディ先生のレオタード」(2012年 9月号)
Y U K I (随想) 吉屋信子少女文学「はるかなる私たちの花物語」(2006年 5月号)	夏木祐二「アルトの声の彼女」(2013年 1月号)
汀 蓉茉(随想)「回転木馬」(2006年 7月号)	はこべ「妖精の恋」(2013年11月号)
Y U K I (随想) 吉田とし少女文学「青いノート一冊目」(2006年 7月号)	夏木祐二「ホームズの帽子」(2014年 7月号)
渋谷 晶「鏡の国のアキラ」(2007年 1月号)	夏木祐二「新しい隠れ家」(2014年 9月号)
神崎 進「ふるさとへ」(2007年 1月号)	熊谷ゆき(エッセイ)「コニーアイランド」(2014年11月号)
高木 翔「SUPER STAR」(2007年 1月号)	はこべ「鉛売り男の旅の空」(VOL.371=2009年11月号の再録)
川島理生子(エッセイ)「SFに思う科学と人間」(2007年 1月号)	現世乱歩「スパイスおばさんが行く」(2015年 3月号)
秤 良一(エッセイ)「星に語った物語」(2007年 3月号)	冬木りた「夏土産」(2015年 9月号)
北斗恵性「Inter Planet Generation」(2007年 3月号)	冬木りた「不思議な喫茶店」(2015年11月号)
秤 良一(エッセイ)「船出」(2007年 5月号)	冬木りた「舞踏会の手帖」(2016年 1月号)
中島省吾「名鉄広見線の旅人」(2007年 7月号)	夏木祐二「夢の向こう側」(2016年 3月号)
中山めぐみ「長い回廊を歩いている」「節日く」(2007年 9月号)	現世乱歩「スパイスおばさん 花と蝶の季節」(2016年 5月号)
中島省吾「十月三十一日の物語」(2007年11月号)	夏木祐二「六つ子の石膏ギブス」(2016年 7月号)
中島省吾「十八才の約束」(2008年 3月号)	現世乱歩「真夏の星の夢」(2016年 9月号)
現世乱歩(詩物語)「初めまして」(2008年11月号)	冬木りた「白い小舟」(2016年11月号)
神崎 進「クリスマスのシャーロック・ホームズ」(2009年 1月号)	高浜富士夫(エッセイ)「悲しきクリスマスイブ」(2017年 1月号)
過負荷「ヒーローの研究」(2009年 1月号)	冬木りた「若き日の恋」(2017年 3月号)
渋谷 晶(エッセイ)「「まだらの紐」のラビリンズ」(2009年 1月号)	現世乱歩「野ばらの森の古本屋」(2017年 5月号)
北斗恵性「悪魔の審判」(2009年 3月号)	現世乱歩「スパイスおばさん 秋の休日」(2017年11月号)
はこべ「赤いボール」(2009年 3月号)	現世乱歩「スパイスおばさん アフタヌーンティー」(2018年 2月号)
神崎 進「呼子鳥」(2009年 3月号)	冬木りた(随想)「夢をつかさどる女神」(2018年 5月号)
はこべ「まぼろし男の四季」(2009年 5月号)	夏木祐二(エッセイ)「シャーロキアンの夏」(2018年 8月号)
神崎 進「四季のメロディー」(2009年 5月号)	中田のぞ美・t・(エッセイ)「格闘」(2018年 8月号)
冬木りた「夜のカフェテラス」(2009年 5月号)	冬木りた(エッセイ)「文化祭前夜」(2018年11月号)
神崎 進「フェアリー・ウォッチング・マニュアル」(2009年 7月号)	中田のぞ美・t・(エッセイ)「パープルナイトに思いあぐね」(2018年11月号)
	おおらと和男(エッセイ)「ふくしま」(2019年 2月号)

♣短篇/学篇小説・エッセイ掲載号♣

中田のぞ美・t・(エッセイ)「独り言」(2019年 2月号)	おおらと和男(エッセイ)「尾瀬」(2019年 8月号)
現世乱歩「スパイスおばさんのドリーム・ティー」(2019年 2月号)	中田のぞ美・t・(エッセイ)「クエスチョニング」(2018年 8月号)
おおらと和男(エッセイ)「わたらせ」(2019年 5月号)	冬木りた「小さな果樹園」(2019年 8月号)
中田のぞ美・t・(エッセイ)「コンパニオン」(2019年 5月号)	おおらと和男(エッセイ)「「おたまじゃくし」の印刷日」(2019年11月号)
高浜富士夫(エッセイ)「夜汽車」(2019年 5月号)	中田のぞ美・t・(エッセイ)「母の教え」(2019年11月号)
冬木りた「五月」(2019年 5月号)	

♣同人インタビュー掲載号♣

Miki(1998年 1月号)	ワルサーP38 珠夢湖 仲倉詩織 汀 蓉茉(2006年11月号)
葦原五色(1998年 3月号)	絵美里☆鳥星 秤 良一 幸枝 松崎喜之(2007年 1月号)
現世乱歩(1998年 5月号)	鳴海杏士 松下あけみ 柏木美慧 原田洋次郎(2007年 3月号)
片瀬順子(1998年 7月号)	榎エミコ 中田ひかり 萩原重太(2007年 5月号)
風早翔子(1998年11月号)	やすひさし 安藤直光 唐沢 翠(2007年 7月号)
emi. mizu(1999年 1月号)	星 紫穂 今津たかこ(2007年 9月号)
飛鳥(1999年 3月号)	麻織姫 酔生夢三死(2007年11月号)
北斗恵性(1999年 5月号)	はこべ 朋穰陽子 中窪利周(2008年 1月号)
稀月真皓(1999年 7月号)	ブルーパール 吉沢弘子(2008年 3月号)
橋 美奈子(1999年 9月号)	滝田一三六 ちくちうしめ 北斗恵性(2008年 5月号)
エズミ黒猫(1999年11月号)	木立かおる 宇井 一(2008年 7月号)
過負荷(2000年 1月号)	蒼月 夢 佐藤さやか(2008年 9月号)
紫冬丸水(2000年 1月号)	青須賀了 結戸敦子(2009年 1月号)
雨音(2000年 1月号)	芽吹 岡村正敏(2009年 3月号)
松崎喜之(2000年 1月号)	
麻織姫(2000年 1月号)	
影井彩斗(2000年11月号)	
神崎 進 B.J 渋谷 晶 四谷 文 川島理生子(2006年 9月号)	

♣個人作品集号♣ ※編集部解説コメント付

藤倉朴士 詩集 ※(1998年 1月号)	ちょこ伊バスタ 小説「ごましおの心」(1999.4 EXTRA1号の再録)
垣見なずな 詩集「なずなを花束にして」※(1998年 3月号)	草凧 唯 詩集「夜の手帖」(2005年 5月号)
珠夢湖 詩集 ※(1998年 5月号)	草凧 唯 詩集「夜の手帖 II」(2005年 7月号)
霧島しずく 詩集「しずくの心を抱きしめて」※(1998年 7月号)	草凧 唯 詩集「PAINTER」(2005年 9月号)
中川 主水 作詞集「心の歌・喝采」※(1998年 9月号)	長薙 零 詩集「COSMOPOLITAN」(2005年11月号)
現世 乱歩 詩集「月のコラージュ」※(1998年11月号)	小山 美樹 詩集「In Through the Out Door」(2006年 1月号)
仲田 修子 作詞集(1999年 1月号)	眞代 詩集「Write Your Message Here」(2006年 3月号)
森京 詞姫 詩+作詞集(1999年 3月号)	中田ひかり 作詞集(2007年 7月号)
Takashi Yamazaki 文集「調和とバランスの哲学」※(1999年 3月号)	中山めぐみ 短編小説集(2007年 9月号)
響 幸哉 詩画集 ※(2000年 3月号)	鳴海 杏士 作詞集「LET'S GO FANTASIA」(2008年 3月号)
小山 剛広 詩集「追憶のセレナーデ」※(2000年 7月号)	ワルサーP38 詩集(2009年 9月号)
高瀬 聖子 詩集「HAPPY BIRTHDAY」※(2000年 9月号)	中山めぐみ 詩+短篇小説「リねん」(2009年11月号)
K・マーホ 作詞集 ※(2001年 1月号)	結戸敦子 詩集「少しものたりないうたた寝のような」(2010年 7月号)
滝田一三六 詩集 ※(2001年 3月号)	現世 乱歩 詩集「ティータイム」(2011年 1月号)
みやまよして 詩集「タイムカプセル」※(2001年 5月号)	鳴海 杏士 作詞集「風と十字架」(2012年 9月号)
菊池 恵史 作詞集 ※(2001年 7月号)	しまだきみこ 作詞集「Sixteen」(2012年11月号)
中村 主水 作詞集「心の歌 II」※(2001年 9月号)	Sho - T 作詞集「Early Years」(2013年 3月号)
落柿倉朴士 詩集 ※(2002年 1月号)	姿 美由紀 詩+作詞集「花と地球とわたしたち」(2013年 5月号)
岸田 隆蔵 作詞集 ※(2002年 3月号)	石田真紀子 作詞集「花宵 花衣」(2014年 1月号)
過負荷 詩集「エデンのはるか東にて」※(2002年 5月号)	羽根田れい 作詞集「銀巴里」(2014年 5月号)
	雪した桜 詩集「詩の季節」(2014年11月号)

MY 詩集

POETRY and LYRICS

Brand-new works

2020 2月号 VOL.428

MEMBERS INDEX

including VISITORS, Lyric INSTRUCTOR and Art MEMBERS

THEME WORK... (Solitude) (Colour) Re-printing... (Rep)

Member	Works Page	Member	Works Page
坂井まゆ子	3/34 (Solitude) (Colour)	小田ともひさ	61
涼木由真	6/43 (Colour)		75
	45/78 (Response work)		77 (Response work)
	82 (Rep vol.427)		80 (Response work)
	85 (Response work)	絵美里☆鳥星	13 (Colour)
佐藤弘基	8/45 (Colour)	いかり あさこ	15 (Colour)
吉沢弘子	8/48 (Colour)	おおら和男	15 (Colour)
	23		71
	41		84 (Rep vol.427)
	59		97
	80 (Rep vol.427)	ちくち うしめ	17 (Colour)
片野ちえみ	10/48 (Colour)	雪した桜	21 (Colour)
	47		60
	79 (Response work)	現世乱歩	21 (Colour)
	81 (Response work)		43
小田ともひさ	10/47 (Colour)		57
	24		73
	36 (Solitude)		78 (Rep vol.427)
	49		

次のMY詩集 5月号 (429号)

原稿メ切.....4月5日
 バックナンバー・リスト.....P.90 - 93
 原稿募集一覧.....P.96
 MY詩集同人・入会のご案内.....P.96

COMMENTS and GUIDANCE TABLE..... Page 4 to 5

Member	Works Page	Member	Works Page
現世乱歩	82 (Rep vol.426)	泉川正樹	50
清水将一	26	月ノ宮華月	51 (Rep since1999)
	31 (Solitude)	浅尾長房	54
	57	月鏡レイ	56
小林智恵	28 (Solitude)	永岡 昭	56
神崎 進	30 (Solitude)	プールパール	58
滝田一三六	32 (Solitude)	ふじお	58
Sho-T	35 (Solitude)		60
四谷 文	37 (Solitude)		71
	72	中窪利周	59
中田のぞ美・t	38 (Solitude)	サラ寛美	61
	50/83 (Response work)	岡田 尚	62
	66	寺崎克志	64
	70	川島理生子	72
聖川 泉	39 (Solitude)		98 (Colour)
有海治雄	40	北野麟朋	77 (Rep vol.427)
泉川正樹	41	珠夢湖	79 (Rep vol.427)
	49	鈴木 一	81 (Rep vol.427)
		冬木りた	85 (Response work)

表紙 蛭田賢一 Kenichi Hiruta

〒332-0015 埼玉県川口市川口4-3-18 MY詩集 編集部

Phone 048-252-8821

編集発行人・熊谷ゆき Yuki Kumagai

editorsroom2@my-shishu.com

http://my-shishu.com

マイ詩集 5月号 (VOL.429) 発表作品送稿ルール

- ◆自由詩……20字×25行以内（たて書き）
 - ◆作詞……20字×30行以内（よこ書き）
自由詩と作詞の行数には、題名・作者名・空行を含みます。
第1行に題名、第2行下方に作者名。本文は、第3行から書き始めて下さい。
 - 初めて作詞をする方は、本誌P51・52を参考にして歌詞の1番2番のフォームを整えて下さい。
 - 短歌、俳句については、P22を参照して下さい。
 - 25行以上の長い自由詩、三部作・四部作、エッセイ、小説などは、P18を参照して下さい。
- ひとつの号に、どの作品形式でも、何作品でも発表できます。
作品の数が多きときは、優先順位を原稿の余白に記して下さい。
スペースの都合で無理な場合に、参考にさせていただきます。
- 課題テーマ作品は、本誌P19を参照。作品形式や行数などで送稿ルールが時々変わります。
ご希望のテーマ名など、リクエストを随時受付けています。
- ◆用紙……A4判400字詰原稿用紙またはA4判ワープロ印字用紙（文字サイズ18ポイント以上）。
原稿用紙右上余白に、4つの必要事項を明記して下さい。
 - ①2月号発表用 ②同人番号 ③本名 ④自由詩／作詞等の種別
 - ◆受付……3月1日・4月5日（掲載発表は5月発行の5月号）
 - ◆送り先……〒332-0015 川口市川口4-3-18 マイ詩集編集部 5月号 自由詩 発表係
作詞 発表係
 - ◆本誌の内容についてのご意見感想、発表したい作品についてのご相談、同人同士の合作希望、住所変更、配本追加希望、メール送稿、ペンネーム変更、その他のご用件は、原稿の余白には書かないで下さい。別の用紙を同封する方法で、ご連絡をお願いします。

プロとアマチュア

おいら和男

若い頃 特に 作詞をやっていた頃
プロとアマチュアの違いについて
悩んでいた時期があった
色々と 本気になって 考えていた
自分なりに 考えた末に それは
意識の 違いによるものだと 思っていた

時は流れて ある音楽関係の 講演会で
プロとアマチュアの違いについて
質問された 音楽プロデューサーは
「それは お金が からんでいるか
いないかの違いだ」と軽く言いきった
ただ それだけの事だったのかと
何となく 自分の心が 軽くなったのを
その時 あらためて 感じていた
若い頃 あれ程 考え悩んでいたのは
いったい 何だったのだろうか

MY詩集の購読・閲覧

定期購読を希望される方は【購読同人】を申し込んで下さい。
MY詩集は作品掲載発表の場所を維持することを最優先しています。
購読同人会員も、お好きなきに感想や作品の掲載ができます。費用は一般同人と同じ額を申し受けます。
〒332-0015 川口市川口4-3-18
MY詩集編集部 購読入会係
国立国会図書館（東京・大阪）では、創刊号＝1972年1月号から最新号までの閲覧ができます。

MY詩集 同人募集

自由詩、作詞、短歌、俳句、エッセイ、小説、イラスト、写真などを発表したい方は、作品2点をお送り下さい。参加案内書類をお届けします。入会金4000円、年間同人費16000円です。
再入会を希望される方もこちらで受付けます。
〒332-0015 川口市川口4-3-18
MY詩集編集部 新人係／再入会係

マイ詩集の原稿を募集している係

長文作品（詩物語・三部作・四部作・小説・エッセイ等）… P.18
テーマ作品（詩・作詞・俳句・短歌・小説・エッセイ等）… P.19
俳句／短歌（連作可）… P.22
作詞ワークショップ … P.40
ファンレターBOX … P.69
返歌／返詩／返詞 … P.76
自由詩／作詞 … P.96
複数の係を1通にまとめる場合は、宛名に係名を併記。

募集規定外の作品

【同人】【読者】不問。作品を拝見させていただいた上で有料掲載のご相談にお答えしています。
掲載費用は、1ページあたり数千円～1万円前後になります（文字数および画像次第）。原稿返送用切手貼付の封筒を添えて作品を郵送して下さい（メール連絡可）。
〒332-0015 川口市川口4-3-18 MY詩集編集部 作品企画係
作詞／自由詩／短歌／小説その他の
個人作品特集

【同人】【読者】不問（429号＝2020年5月号P.72参照）。
掲載希望作品を同封して、編集デザインのご希望等をご相談下さい（メール連絡可）。
〒332-0015 川口市川口4-3-18 MY詩集編集部 特集号係



今日のラッキーカラー

川島理生子

今日の私は 若竹色
 初夏の新緑のような爽やかな
 さっきあなたから来た書類
 端についていた付箋の色

今日の私は 桜色
 淡くやさしくほんのりと
 すれ違い際にこつそりと
 良く似合うと言われたスーツ

今日の私は 水玉色
 夕べからずっと降り続く雨
 昨日の帰りに見た光景
 傘で笑い合う 知らない二人

明日からどうしよう……
 心機一転 白からはじめようか